

正三位尾崎三郎
一同上

正四位櫻井能監
一同上

從五位多田好間
一同上

從四位宇田淵
一同上

正七位告森良
一同上

從六位三橋勝到
一同上

紀念祭事業完了セリヲ以テ市參事會ハ紀念祭委員上下京區長ニ對シ其功勞ヲ表
スル爲メ左ノ謝狀及ヒ物品ヲ贈與セリ

昨明治二十八年本市ニ於テ舉行セシ平安遷都千百年紀念祭ノ事務ニ關シテハ

(終始委員長ノ重任ヲ帶ヒ)拮据勉勵孜々トシテ其職責ヲ盡サレ希世ノ盛典ヲ完
全無缺ニ遂行シ大ニ本市ノ聲譽ヲ發揚スルニ至レルハ其功績實ニ顯著ナリ依
テ紀念ノ爲メ別紙目錄ノ品ヲ寄贈シ篤ク其謝意ヲ表ス 文中括弧内ノ文字ハ委員
ニハ上京區長トシ
テ其職務上ニ作ル

明治二十九年四月

京都市參事會

京都府知事山田信道

某 殿

其物品ハ之ヲ五等ニ別ツ

- 甲 屏風 一雙
 - 乙 銅製瓶懸 一個
 - 丙 花瓶 一對
 - 丁 銀製湯沸 一個
 - 戊 袴地 一具
- 其受贈者ハ左ノ如シ

- 甲 紀念祭委員長 內貴甚三郎
- 乙 同委員 雨森菊太郎 東枝吉兵衛 西村治兵衛
- 丙 同委員 久世通章 矢野長兵衛 堀五郎兵衛
- 中村榮助 村田榮次郎
- 下京區長 辻 信次郎
- 丁 紀念祭委員 中村善右衛門 粟辻三右衛門 玉水新太郎
- 碓井小三郎 貞廣太郎 西村義民
- 山本清助
- 上京區長 增田 正
- 戊 紀念祭委員 中村平右衛門 西村七三郎 田中善右衛門
- 外ニ大極殿遺趾碑文字揮毫ノ謝儀トシテ贈與セシモノ左ノ如シ
- 掃地 一具 山田長左衛門

議事堂建築

京都ニ於テ從來公會堂ノ設ケナキ頗ル缺點ヲ感セシカ二十八八年ハ希世ノ盛典ナ
 レハ公會堂ノ必要アルヲ以テ此際ニ於テ之ヲ建設セントシ明治二十六年七月十
 八日市會開會中議員雨森菊太郎之ヲ建議シ八月市會ニ於テ左ノ建議案ヲ可決シ
 參事會ニ出願セリ

建議 二十六年八月議定

公會堂建設費發案願

來ル明治二十八年京都市ニ於テ平安遷都千百年紀念祭ヲ舉行シ第四回内國勸
 業博覽會ノ開設等モ有之候ニ付テハ此際公會堂建設ノ必要ヲ見認候間該建築
 費御取調ノ上御發案相成度此段全會ノ意見ヲ以テ請願致候也

明治二十六年九月

京都市會議長中村榮助

京都市參事會

京都府知事千田貞曉殿

參事會ニ於テハ之ヲ可トシ其地ヲ選定シ元勸業場附屬栽培試驗場目下府會ノ所
 有地タル所ヲトシ十一月二十八日市會ニ附議シ其拂下ヲ府知事ニ出願スルコト

ヲ議決スル左ノ如シ

市第九十號議案 二十六年十一月二十八日確定

本市公會堂建築敷地トシテ元勸業場附屬栽培試驗地ノ拂下ヲ府知事ニ請願ス
ルモノトス

但市部ニ屬スヘキ分ハ無代價下渡ノ意味ヲ請願書中ニ附記ス

市會ニテ之ヲ可決シ府知事ニ請願シ府知事ニ於テハ之ヲ可トシ府會ノ議決ヲ經
テ之ヲ拂下クルコトニ決シ二十七年三月十六日市會ニ於テ其土地買收費金四千
四拾壹圓拾六錢壹厘雜費金百拾貳圓九拾七錢八厘ヲ議決セリ

參事會ニ於テハ其議決ニヨリ之ヲ實施シ四月二十七日市會ニ於テ公會堂ヲ改メ
テ議事堂ト稱スルコトトシ五月九日市會ニテ其建築費金貳萬七千拾八圓拾九錢
五厘ヲ議決セリ

其地所ト工事經費トニ決セシヲ以テ參事會ニ於テハ夫々ノ手續ヲ爲シ其工事ヲ
興シタリ其設計ハ和洋折衷ニシテ總檜木造リ南面ニシテ十字ニ通路ヲ開キ總
テ二階造リトシ樓上ノ西部ヲ大廣間トシ疊敷床附トシ副議場トス其他ヲ五室ニ
分ナタリ其下ハ七室トシ以テ知事以下議長議員書記及傍聽人等ノ室ニ充テ其東

部ヲ議場トシ東面ス西ニ議長席ヲ設ケ半圓形ニ議員席ヲ設ケ其三方ノ上ニハ傍
聽席ヲ設ケ二階ヨリ出入スヘカラシム暖室機械ヲ設ケ議場及ヒ樓下各室ハ皆鐵
管ヲ敷設シ通スルニ蒸氣ヲ以テス其他浴室厨馬立物置等ニ至ルマテ皆備ハレリ
邸内芝山ヲ築キ松樹ヲ植エ砂石ヲ敷ケリ二十八年三月二十五日落成シ知事以下
臨ンテ開堂式ヲ行ヒ其儀頗ル盛ナリ

市會府會ヲ始メ總テノ會議ハ論ナク市ノ公共事業ハ此ニ開クコトトナリ又他ノ
公共大集會ニモ規定ヲ立テ、之カ使用ヲ許シ大ニ便利ヲ爲セリ

鐵道複線布設建議

是ヨリ先キ明治二十六年市會議員碓井小三郎市會ニ建議シ來二十八年紀念祭及
博覽會ノ舉行ニ付神戸馬場間官設鐵道ヲ複線ニセンコトヲ希望シタルニ當時決
議ニ至ラスシテ罷ム其後委員長内貴甚三郎東上ノ時松本鐵道局長ニ面會シ複線
布設ノ事ヲ質問セシニ同局長ノ答ニ此議ハ夙ニ余ノ希望セシ所ニシテ既ニ内閣
ニ提議シタリシニ廢接トナレリ然レトモ京阪人民ニシテ熱心運動セハ或ハ閣議
ヲ動カスニ足ラソ云々ト二十七年一月市臨時事務員若松雅太郎東上中書ヲ委員

長ニ宛テ復線ノ議ハ目下ノ事情或ハ困難ナランモ瀛車速力増進ノ事ハ允可ノ見
込無キニアラス速ニ建議書ノ提出アリタキ旨促シ來レリ二月六日委員會之ヲ議
シ市參事會ニ上申スルコトニ決シ翌二十八年之ヲ市參事會ニ提出シタリ今其全
文ヲ左ニ掲ク

上申書

神戸馬場間鐵道ニ復線ヲ設ケ瀛車發着時間ヲ改正シ及其進行速力増進ノ義ヲ
別紙ノ趣旨ニ據リ逕信大臣へ建議相成候様致度委員會ノ決議ニ依リ此段上申
候也

明治二十八年二月二十八日

紀念祭委員長内貴甚三郎

京都市參事會

京都府知事 中井 弘殿

馬場神戸間鐵道復線布設ノ義ニ付建議趣旨書

神戸馬場間鐵道布設以來我カ京都ニ内外國人ノ往來頻繁ナルコト年一年ヨリ
多ク近頃東海關西山陽諸鐵道ノ開通セシヨリ一層ノ増加ヲ來タシ現今ニ在リ
テモ春秋彼岸及ヒ花候ニハ旅客停車場ニ充滿シ非常ノ雜沓ヲ極メ爲メニ瀛車

發着ノ時刻ヲ失スルコト屢ニシテ動モスレハ一時間乃至二時間ノ遲延ヲ生ス
ルコトアリ其限リアル列車ヲ以テ單線路ニ依リ之ヲ運載セントスルカ故ニ自
然此ノ結果ヲ來タスハ己ムヲ得サル次第ニ有之方今民度日ニ進ミ商業月ニ盛
ナル時ニ當リ獨リ瀛車ノ運用ニ至ツテ其遲緩ナル斯クノ如クナレハ通常旅客
スラ之レカ不便ヲ感ス況ンヤ一刻千金ヲ爭フ商業者ノ不便利ヲ蒙ルコト實
ニ枚舉ニ遑アラズ聞ク外國人ハ瀛車ノ遲速ヲ以テ我カ帝國文明ノ程度ニ論及
セリト遺憾ノ次第ニ候

抑モ現今未タ瀛車ノ効用ヲ盡サ、ル前文陳述ノ如ク然ルニ來明治二十八年當
市ニ於テハ 桓武天皇遷都千百年紀念祭ヲ舉行スルト同時ニ内國勸業博覽
會ノ開設アリ就テハ府下著名ノ各社寺ハ臨時祭典法會等ヲ執行シ就中大谷派
本願寺ハ新築落成式ヲ舉行スル由殊ニ花候ノ際各宗幾千萬ノ信者一時ニ來集
シ其混雜一方ナラス隨テ當市中意外ノ紛擾ヲ生スヘシト苦慮致候此時ニ至リ
許多ノ旅客ヲ迅速ニ安全ニ運載セントスルニ單線軌道ニテハ所詮其目的ヲ達
スル能ハサルコト現今ノ景狀ヲ推シテ明知スヘシ勢ヒ直ニ神戸馬場間ニ復線
ヲ布設シ隨時發着ノ方法ニ由ラサルヲ得ス仄カニ聞ク政府ニ於テモ疾ク此ニ

所見アリ阪神間ハ既ニ複線布設ニ著手セラレ馬場大阪間モ漸次著手ノ計畫アリト果シテ然ラハ此際非常ノ英斷ヲ以テ一日モ速ニ著手セラレソコト目下本市ノ切望ニ付何卒其筋へ建議ノ上速ニ採納著手有之候様可然取計ノ義所仰請候萬一複線布設ノ義ハ短日月ヲ以テ成功ヲ望ムヘカヲサルカ或ハ經濟ノ許サル所トスレハ己ムヲ得ス隨機ノ一策トシテ左ニ本市希望ノ要項ヲ副申ス

- 一停車場ヲ擴張シ構内線路ヲ増設スル事
- 一汽車ノ速力ヲ増進スル事
- 一發着回数ヲ増加スル事

右ハ獨リ當市ノ爲ノミナラス内外衆庶ノ安全便利ヲ企圖候ニ依リ特別ノ御所置最モ希望ニ堪ヘス候因テ此段及上申候也

京都市參事會

明治二十七年二月

京都府知事 中井 弘

京都府知事 中井 弘殿

府知事ハ右建議ヲ採用シ速ニ内閣ニ稟申シタルニ内閣ノ受理スル所ト爲リソト雖トモ施設ノ場合ニ至ラス然レトモ汽車速力増進及ヒ停車場擴張ノ如キハ實施

セラレ二十八年ニ至リ萬衆輻湊ノ時ニ至リ幸ニ大延滞ヲ致スコトヲ免レタリ

待賓協會設立

紀念祭ハ千歳一週ノ盛舉第四回内國勸業博覽會ハ勸業殖産上ノ大業ナレハ内外貴顯紳士ノ京都ニ來ル者必ス多カルヘク其接待準備ハ紀念祭事務所ニ於テ計畫スルト雖トモ事務所ハ他ノ事業煩雜ニシテ專一ニ從事スルアタハス又京都ニハ未タ完全ナル俱樂部ノ設ケアラス甚關ク所アルヲ以テ貴賓接待ノ爲メ其團體ヲ組織セントノ議アリ田中源太郎濱岡光哲内貴甚三郎兩森菊太郎東京ノ和田正修等專ラ其事ヲ幹旋シ市内高等官學校長名譽職紳士富豪ト協議シ渡邊府知事ヲ推テ會長トナシ創立委員十名ヲ置キ接待部俱樂部庶務會計部ヲ置キ其旨趣規約ヲ定ムル左ノ如シ

待賓協會設立ノ趣旨

戰爭未タ央ナラサルニ已ニ我邦ハ國威ヲ中外ニ揚ケ十二分ノ廣告ヲ做セリ外國新聞ハ日本國ハ戰捷ニ依リテ世界強國ノ班列ニ加ハルニ足レリト斷言スルニ至レリ是レ寔ニ千歳一週ニシテ稀有ノ好機會ト謂ハサルヘカラス

日本ハ實ニ兵力ナ有セリ然レトモ世界ハ未タ之ヲ認メサリキ而シテ之ヲ發揮シタルモノハ日清戰爭ナリトス戰捷ノ後ニ膨脹アリ何ソ管版圖ノ膨脹ノミナランヤ一般ノ事業ハ之ト發達ヲ共ニスルモノナリ昔佛戰爭ノ後ニ實業上ノ面目ヲ改メタルモノハ獨逸ナリ南北戰爭ノ後ニ物質的ノ隆盛ヲ極メタルモノハ米國ナリ歴史若シ我ヲ欺カスハ日本ノ前途ハ亦多望ナリト謂フヘシ

廣告何ソ一ニ限ラン戰爭ハ兵事ノ廣告ナリ而シテ更ニ國力ノ廣告ヲ做スモノ亦之レ無ルヘカラス博覽會ハ即其機關ニ當ルモノナリ

桓武天皇遷都千百年紀念祭執行ノ爲ニ將ニ本年ヲ以テ京都ニ於テ第四回內國勸業博覽會ハ開カレントス即是レ戰爭ト相照應スルモノニシテ彼廣告アレハ又此廣告ナカルヘカラス抑モ日本實業ノ發達ヲ計ラントスルニハ此機會ニ際シ此博覽會ヲ利用セスシテ他ニ之ニ優ルノ好機關アルヘケンヤ第四回內國勸業博覽會ハ一方ヨリ之ヲ觀ルトキハ恰モ祝捷會ノ性質ヲ有スルモノニシテ千八百七十一年ノ伯林博覽會ト其旨趣ヲ同クスル者ト謂フモ敢テ過言ニアラサルヲ信スルナリ

夫レ然リ本年開設ノ京都博覽會ヲ隆盛ニシテ其成功ヲ切望スルト同時ニ東遊

ノ外賓ヲシテ我兵事上ノ進歩ノミナラス併セテ經濟上ノ發達ヲ見セシメ且之ニ對スル我士民親交ノ濃厚ナルヲ知ラシメント欲ス同感ヲ惹クハ親交ノ始メニシテ百般ノ事渾テ此一系ノ情緒ヨリ生スルニアラサルハナキナリ若シ夫レ外賓ヲ款待スル事ノ將來彼我貿易隆盛ノ階梯タルヲ知ラハ之ヲ忽諸ニ附スルノ不利ナルコトハ炳乎トシテ火ヲ親ルヨリモ明ナリ

故ニ茲ニ博覽會ニ對シ待賓協會ナルモノヲ設ケ之ヲ以テ外賓ヲ款待スルノ機關ニ供シ聊カ之カ便宜ト幸福ヲ計ラントス亦是日本帝國ノ真相ヲ海外ニ發揮シ國運ノ開發ヲ促カスノ微衷ニ外ナラサルナリ

待賓協會規則

第一條 本會ハ待賓協會ト稱シ事務所ヲ當分京都市寺町二條下ル妙滿寺方丈ニ置ク

第二條 本會ハ平安遷都紀念祭第四回內國勸業博覽會ニ際シ來遊ノ外賓ニ便宜ト快樂ヲ與フルヲ以テ目的トス

第三條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事項ヲ行フ
一紀念祭博覽會ノ概畧本會設立ノ要旨旅館車馬其他外賓ノ注意ニ供スル事

項ヲ簡明ニ記シタル印刷物ヲ内外各地ニ配附スル事

一 外賓ノ名勝遊覽又ハ學校工場等參觀ノ爲ニ特待ノ便宜ヲ與フル事

一 外賓ノ學術技藝研究等ノ爲ニ内國人へ紹介ノ勞ヲ取ル事

一 内外貿易通商ノ紹介又ハ外賓物品購求ノ便宜ヲ與フル事

一 俱樂部ヲ設ケ外賓ニ快樂ヲ與へ且内外紳士ノ交際場トナス事

一 外賓ノ通辯案内等ノ紹介ヲ爲ス事

一 右ノ外外賓ノ需メニ應シ成ルヘク便宜ト快樂ヲ與フル手續ヲ爲ス事

第四條 會員ヲ分ツテ名譽會員通常會員臨時會員トス

第五條 名譽會員ハ役員ニ於テ推薦ス

第六條 通常又ハ臨時會員タラントスル者ハ本會事務所へ申込役員ノ承認ヲ

經ヘシ

第七條 通常會員ハ入會ノ節金拾圓以上臨時會員ハ同金五圓以上ヲ寄附スル

モノトス

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

幹事 若干名(内一名ヲ以テ幹事長トス)

評議員 若干名

委員 若干名

事務員 若干名

第九條 幹事長ハ本會一切ノ事務ヲ管理シ幹事ハ本會各部ノ事務ヲ分擔ス

第十條 評議員ハ本會重要ノ事務ヲ評議ス

第十一條 委員ハ特ニ囑托セラレタル事務ヲ處理シ事務員ハ幹事ノ指揮ニ從

ヒ庶務ニ従事ス

第十二條 評議員ハ通常會員總會ニ於テ撰舉シ幹事ハ評議員ニ於テ幹事長ハ

幹事ニ於テ互撰ス

第十三條 委員ハ幹事ノ協議ヲ以テ囑托シ事務員ハ幹事ノ協議ヲ以テ撰任ス

第十四條 本會處務規程俱樂部規則其他ノ規程ハ幹事ノ協議又ハ評議員ノ評

決ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 本會ハ第二條ニ掲記スル外本會ノ經費ヲ補助スル爲メ相當ノ事務

ヲ取扱フコトアルヘシ

第十六條 本會ノ經費ハ會員其他ノ寄附金及本會ニ於テ經理スル事務ノ收入

ヲ以テ支辨ス

第十七條 本會事務ノ便宜ニヨリ東京横濱神戸等ニ支部又ハ出張所ヲ置クコトアルヘシ

第十八條 本會ハ勸業博覽會閉會ノ後幹事ヨリ事務會計ヲ通常會員總會ヘ報告シ爾後ノ處分ハ總會ノ決議ニヨリ之ヲ定ム

因テ有樂館及萬花園ヲ借リ切リ以テ俱樂部トシ大ニ修理ヲ加ヘ高尚優美ナル裝飾ヲ爲シ備附器品ニ至ルマテ之ヲ新調シタリ其費用ハ正會員拾圓臨時會員五圓宛ヲ寄附シ假ニ千名以上ト見積リ博覽會入場券賣捌料美術館下足廻等ヲ參事會ヨリ博覽會ニ交渉シ本市ニ引受クルコトトシ其收入ヲ協會費ニ充テ又協贊會ヨリ金五百圓ヲ補助シ凡壹萬圓ノ見込ヲ以テ之ヲ支辨セリ

有樂館ハ建仁寺元正傳院ニテ織田有樂齋ノ晚年創立セシモノ維新後廢寺他ノ所有トナリ宴會席ニ充テタリ其館舍宏壯ニシテ林泉幽雅當年ノ結構ヲ存シ其中ニ長好閣嘯月臺貝多塔清心池無熱病有樂竹左女ヶ井釜山海如庵紹鷗塔等アリ樹老ヒ石古ク清閑高雅京都都有數ノ好亭館ナリ又萬花園ハ近年ノ開ク所ナレトモ萬種ノ牡丹ヲ植エ滿園ノ雁來紅アリ其他花木多ク亭舍清雅亦好園ナリ加之其裝飾備

品ヨリ萬般ノ準備已ニ調ヒ貴賓ノ來ル概テ此ニ請待シ又大小ノ宴會ヲ開ク等無數ノ便利ヲ得タリ紀念祭執行後待賓協會ハ之ヲ解散スヘキヲ以テ十一月二十七日總會ヲ開ラキ府知事以下集會スルモノ百六十餘人幹事田中源太郎ヨリ收支決算ヲ報告シ解散式ヲ行ヘリ會員三百十九人ノ内通常會員百九十九人臨時會員百二十人經費八千九百九拾五圓ナリシト云フ待賓協會ハ非常ニ貴賓接待ノ便利ヲ與ヘシヲ以テ今之ヲ解散スレハ京都ニ一ノ完全ナル俱樂部ナク甚々缺點ニ屬スルヲ以テ協議ノ上更ニ京都俱樂部トシテ之ヲ繼續スルコトト爲セリ

各種建議

平安神宮ニ藤原百川和氣清曆二公配遷議

此二公ハ桓武天皇ノ元勳ニテ百川公ハ定策援立ノ功アリ和氣公ハ平安京造營ノ勳アリ故ニ平安神宮ニ配享シ以テ其大功ヲ表セントノ意ニテ建議ニ及ヒシナリ

謹テ案スルニ 桓武天皇叙哲剛明天堯無窮ノ寶祚ヲ踐ニ乾坤整頓ノ洪圖ヲ運ラシ外ハ六師ヲ興シテ蠻族ヲ威伏シ内ハ靈地ヲ相シテ新京ヲ經始シ 天祖天

孫ノ大業大ニ定マリ 列祖神宗ノ遠猷益弘マル實ニ天地不朽ノ鴻烈ニシテ萬世不祧ノ大宗ナリト云ヘシ 天皇神聖ノ德英武ノ畧アリト雖トモ此大業偉烈ヲ成シ玉ヒシ本原ヲ繹スレハ百川公定策援立ノ勳清磨公相地奏請ノ功ニ之レ由ルト謂ハサルヲ得ス國史ヲ案スルニ 孝謙帝ノ季年妖僧蘇ヲ亂リ大臣位ヲ倫ミ 天位ノ危キコト實ニ累卵モ管ナラス百川公深ク社稷ヲ憂ヒ常ニ匡正ノ志ヲ抱キ帝ノ崩スルニ當リ兄良繼從兄永手等ト相謀リ 光仁帝ヲ迎立シテ天智ノ正統ヲ復シ一世ノ明君ヲ立テラレシカ後皇太子廢セラレ國儲未タ定マラサルニ際シ公 山部親王ヲ立ソコトヲ請フ 帝聽カス起テ内ニ入ル公曰聖斷ヲ承ケサレハ臣肯テ退カスト殿前ニ立テ命ヲ待ツ者四十餘日 帝其誠悃ニ感シ遂ニ之ヲ允ス公抃舞歡呼急ニ宣シテ親王ヲ迎ヘ立皇太子ト爲ス是實ニ 桓武天皇ナリ 天皇已ニ大統ヲ承ケ長岡ノ京ヲ營ス十年ニシテ未タ成ラス變途費ヲロス清磨卿密ニ遊獵ニ托シテ葛野郡ヲ相シ以テ帝都ヲ遷サンコトヲ奏請ス 天皇其議ヲ嘉納シ卿ヲ以テ造宮大夫ニ任シ新京造營ノ事ヲ督セシメ遂ニ都ヲ遷ス平安京即是ナリ因テ此平安京奠昇ノ首唱ト其造營ノ主幹ハ實ニ清磨卿ナルコトヲ知ルヘシ其大功偉績思ハサル可テス況ンヤ卿ノ宇佐神勅直奏ノ如キハ我カ國民ノ一日モ

遺忘スヘカラサルニ於テヤ嗚呼二公ノ如キハ延曆ノ朝君臣一德ノ元功ニシテ實ニ王室萬古ノ名臣ト謂フヘシ抑 桓武天皇ハ百川公ノ萬死ヲ冒シ一身ヲ抛キ百難ヲ排シテ援立セラレシ所ノ聖主ナリ平安帝都ハ清磨卿ノ形勝ヲ審相シ靈地ヲ知リテ密請以テ 帝衷ヲ誘カレシ所ノ皇京ナリ今ヤ星霜一千百年ノ久キ經ルモ帝京依然聖德新ナルカ如シ之ヲ世界ニ求メ之ヲ古今ニ徵スルモ他ニ比類スヘキ者アルナシ嗚呼天壤無窮ノ寶祚萬世一系ノ帝國ニアラスンハ豈此宇宙無窮ノ盛事アラシヤ今此奠都祭ヲ行ヒ 桓武天皇ノ尊靈ヲ奉祭スルニ際シ曆太政大臣正一位藤原朝臣百川公民部卿兼造宮大夫贈正三位和氣朝臣清磨卿二公ノ英靈ヲ配享セハ則 聖帝名臣在天ノ靈相共ニ愛感格シ忠愛ナル國民ノ盛典ヲ欽享シ冥々間此平安京都ノ隆盛ヲ眷祐シ其繁榮窮極ナカルヘシ幸ニ別格官幣社護王神社ハ即チ和氣公ノ靈ヲ祭ル所ニシテ藤原公モ亦愛ニ合祀セラル、ナ以テ此社頭ニ於テ別ニ祭典ヲ舉行スルモ可ナルヘシ蓋シ此舉タル苟モ尊王愛國ノ精神アリテ此奠都祭ニ賛成スル人ハ必ス此二公配享ノ儀モ一致賛襄セラルヘキハ某等ノ信シテ疑ハサル所ナレハ冀クハ此議採用セラレソコトヲ謹テ建議ス

明治二十六年五月十一日

護王神社宮司從三位子爵西洞院信愛

平安文庫創設ノ議

此京ハ千年以來文學ノ淵源ニシテ我國ノ著書近世以前ニ成レルモノハ概
テ此地ノ編著ニ屬セリ然ルニ維新來四方ニ散シ今日ニ在リテモ一ノ文庫
ナキハ甚々缺典ナルヲ以テ此紀念祭ヲ機トシ京都ニ關スル文籍及各種ノ
書物ヲ集メ平安文庫ヲ神宮ニ創立シ永ク紀念ト爲サントノ意見ニテ建議
セリナリ

京都ニ關スル古來ノ圖書ヲ蒐集シテ平安文庫ヲ建ル議

平安奠都紀念祭ニ付テハ其旨趣書ニ於テ建都以來制度文物美術工藝其他百般事
物ノ沿革變遷ヲ考明シテ之ヲ公示シ我國古來文化開進ノ事跡ヲ内外人ニ知ラシ
メントス善哉言ヤ是レ建都祭ニ付テハ必需不可缺之事ニシテ苟モ如此ナラサレ
ハ何ヲ證トシテ以テ吾千載不易ノ帝都ノ光輝ヲ發揚センヤ今ヤ已ニ式典編纂部
ヲ置キ將ニ此事業ヲ起サントス然レテ此事タル一ニ古今京都ニ關スル圖書ニ之
レ頼ラスンハアラス且堂々タル千載ノ帝京ニ於テ一ノ完全ナル書籍館ナキハ一
大缺典ナルヲ以テ此建都祭ノ大典ニ依リ廣告ノ旨趣ニ據リ制度文物美術工藝其
他百般事物ノ沿革變遷ヲ觀ルヘキ古來京都ニ關スル書籍ヲ蒐集シ一ノ文庫ヲ建

テ之ヲ平安文庫ト號シ桓武天皇神宮ニ附屬シ永世保存ノ方法ヲ立テ以テ建都祭
ノ紀念物トセント欲ス其方法ハ今回編纂ノ爲ニ購入ヲ要スル書籍ヲ基本トシ建
都祭首唱者及ヒ協賛會其他一般有志者ヨリ其々書籍ヲ寄附セシメ又從前北野神
社ニ於テ行ハレシ方法ニヨリ今後京都書肆其他同志ノ書肆ニ於テ發行スル書籍
ハ各一部宛寄納スル規約ヲ結ヒ其規則ヲ嚴ニシ保管ヲ正クセハ以テ永世ニ保存
スルニ足ル則チ獨リ建都祭ノ紀念タルノミナラス京都全般有益ノ文庫タルヲ信
スルナリ

明治二十六年四月十二日

紀念祭京都府委員湯本文彦

將軍塚修理保存ノ議

將軍塚ハ栗栖野ナル田村將軍塚ナルヘキモ華頂山ニアル古塚モ古來將軍
塚ト稱シ其名甚々高ケレト今ハ大ニ荒廢シ墓樹モ殆ント枯死セントスル
ヲ以テ此際修理保存シテ一ノ名勝ヲ失ハサル爲メ建議セリナリ
將軍塚ヲ修築シ紀念碑ヲ建テ其事實ヲ記シ併セテ其登路ヲ開キ衆人登覽ニ
便スル議

桓武天皇既ニ平安京ヲ建テ以テ萬世ノ帝都ト爲シ更ニ之ヲ遷徙スルコトナカラ

シメント欲シ八尺ノ偶人ヲ作り之ニ甲冑弓箭刀劍ヲ帶セシメ帝親カラ之ニ勅シテ曰ク汝此平安京ノ鎮護トナリ永ク遷移アラシムルナカント乃チ坎ヲ東山ノ嶺ニ穿テ西面シテ之ヲ埋メ塚ヲ其上ニ築キ之ヲ將軍塚ト稱ス是レ帝ノ此京ヲ永遠ニ奠定シテ動遷ナカラシメント欲シ給ヒシ叙念ノ存スル所ニシテ平安京ニ屬スル有名ノ舊蹟無比ノ名勝ト謂フヘシ今猶兀然華頂山ニ存在シ人ヲシテ一望懷古ノ情ニ堪ヘサラシムルト雖トモ塚形圯頽古樹枯槁殆ト將ニ荒廢ニ歸セントス實ニ可惜ノ至ト謂フヘシ此將軍塚ハ奠都祭ニ付テハ大内裏趾ト共ニ考證表彰スヘキ重要ノ舊址ナレト更ニ其圯頽ヲ修築シ其古圖ヲ調査シ其舊形ニ復シ側ニ一碑ヲ建テ其事實ヲ刻シ且ツ其北ニ路ヲ開修シ其登覽ヲ容易ニセハ益々延曆奠都ノ英圖ヲ追懷シ千歳舊京ノ壯觀ヲ添フルニ足ラン其他神泉苑モ延曆造築ノ依然存スル者ナレハ相應ノ修治ヲ爲シ之ヲ表彰スルヲ要スヘシ近年紀念碑建立流行而シテ無用不急ノ者殆ント其半ニ居ル然レトモ將軍塚ニ至リテハ大ニ其趣ヲ異ニシ建碑ノ主趣ニ合スル者タルヲ信スルナリ

明治二十四年四月十三日
紀念祭京都府委員湯本文彦
旅館ニ係ル建議

紀念祭ニハ内外ノ來賓幾千萬人ナルヲ知ルヘカラス旅館ノ準備最モ急ナリ委員會ニテ此ニ注意シ當業者ヲ獎勵シ租々準備ヲ爲シタリ此建議ハ宿屋總代ノ建議セシモノニテ當時京都旅館ノ實況ヲ知ルヘキヲ以テ之ヲ録ス

宿屋業取締規則改正ニ付意見

宿屋業取締規則改正具申ノ件ニ付テハ不肖本員ハ宿屋業組合役員ニ從事スルヲ以テ該組合ノ實況ト併テ意見ヲ左ニ開陳ス

宿屋業組合設置以來ノ情況タルヤ昨二十六年十月二十四日同組合創設ノ當初組合ニ加入セサル者夥多有之タルヲ以テ夫々勸告シ又ハ未加入者所轄警察署ニ於テモ召喚説諭アリタルモ到底該組合ハ私設ナルヲ以テ加入ヲ肯ソセス依之本年一月以來屢其筋ニ對シ組合ヲ設置シ營業者ハ加入スヘシ加入セサルモノハ相當ノ制裁アル命令ヲ發布セラレシコトヲ内陳シタルモ目下ノ世運ニ對シ營業又ハ人權ヲ侵害スルノ虞アルヲ以テ尙一層勉勵私設完全ヲ期スルニ努力ス可キ旨客月二十四日警部長ヨリ最後ノ内諭ニ接シタリキ依テ翌二十五日組合定期會ヲ開キ各員ノ意見ヲ叩キタルニ目前來年度ノ大事業ニ近接スル場合組合解散等爲ス

ヘキモノニアラス當分現在加入者ヲ以テ維持シ組合經費ノ如キモ既加入者而已
 ナ以テ引續キ支辨スルコトニ定メタリ然レトモ斯ノ如キ不完全ナル組合ナルヲ
 以テ荏苒今日ニ至リ漸次鞏固心ニ乏シク今後尙一層脫離スルモノ増加シ四分五
 裂ノ情況ニ立至ルヤト該組合役員一同ハ憂苦ノ折柄ナルヲ以テ假令ヒ取締規則
 ノ要點ニツキ改正ヲ求メ得ルモ營業團體ナル組合基礎ニシテ前陳ノ情況ナレハ
 實行周到スルノ道ナキモノトス依テ第一著ニ取締規則全体改正ト同時ニ當市ニ
 一組合ヲ設ケ營業者ハ該組合ニ加入スヘシ(制裁ナキモノナレハ人權云云ノ嫌ヒ
 ナルヘキニツキ制裁ナキモノニテモ目下ノ情況ニテハ可ナリトス)組合規約ハ認
 可ヲ經テ施行スヘシトノ條目ヲ同規則ニ加設セラレコトヲ否ラサレハ同組合
 ハ特ムニ足ラスシテ當市繁榮如何ソニ大イナル關係有之旨當協贊會ノ意見トシ
 其筋ヘ内陳セラレコトヲ希望ス其要領ヲ得タル以上他ノ條項改正ハ第二段ニ
 申立ツルコトニ致シ度何トナレハ右條目有無ニツキ規則ノ体面又ハ組合ノ情況
 規約ノ面目ヲ一新スルモノナレハ從テ改正ノ方針ヲ異ニスルモノナレハナリ依
 テ御參考ノ爲メ別紙概表ヲ添附シ意見開陳候也

接待委員

明治二十七年九月十一日

西村庄五郎

接待委員長

内貴甚三郎殿

追申規則改正意見ハ總体ニツキ多々已ニ組合ニ於テモ定見有之且ツ是迄其
 筋ヘ具申シタル件モ有之ニツキ本文ノ要領ヲ得タル以上本會ヘ呈出可致候
 宿屋業概表

一八百九戸
 但族人宿下宿屋木賃宿モ包含ス
 二十七年八月末

内譯

一五百七十戸
 組合加入高

營業等級別	十二等	十七等	十九等	廿一等	組合加入高
	一戸	一戸	一戸	四戸	十五等
					十八等
					二十等
					廿二等
					一戸
					一戸
					八戸
					六戸

廿三等	十戸	廿四等	十一戸
廿五等	五十一戸	廿六等	四十七戸
廿七等	百九戸	廿八等	三百三十四戸
計	五百七十九戸		

但二十六年十月ヨリ二十七年七月迄新規開業百十一戸廢業五十一戸
差引現數

一二百三十戸

從前營業者ニシテ組合ニ加入セス又ハ加入後脫
離シタル總高

内

四十八戸	木屋町通井ニ三條通
八十八戸	西本願寺附近
十五戸	下京元十一組内協親組ト稱スル一派
二十二戸	東本願寺附近踏所ト稱スルモノ
十一戸	吉田町
四十六戸	其他所々ニ散在スルモノ
計	二百三十戸

合計八百九戸

宿屋業組合設立命令發布必要ニ付意見書

一明治十九年中驛傳取締規則ノ廢セラレ宿屋業組合モ亦共ニ中絶ニ歸シテヨリ
同業者中ニ種々ノ弊害弊害種類ハ枚擧ニ遑アラヌ口頭陳辯スナ醜生シ或ハ官
ノ可ラサル奸策ヲ以テ同業者及ヒ旅客ヲ困難ノ地ニ陷ラシムル如キ所業ヲナ
ス者續々輩出シテ底止スル所ヲ知ラサルニ至レリ殊ニ來ル明治二十八年ノ内
國博覽會及桓武天皇奠都紀念祭ハ當市ニ於テ實ニ空前絶後ノ一大盛舉ニシテ
此時ニ當リ内外國人ノ當市ヘ輻輳スルモノ幾十萬ナルヲ知ラサルヘシ是ニ於
テ旅宿ノ拂底ヲ告ケ旅客ノ戸外ニ彷徨スルニ至ルヲ時トシ彼ノ奸宿カ倍々冷
淡ナル待遇ヲ以テ非常ノ宿價ヲ貪取スルハ二十三年御影參リノ伊勢路及ヒ本
年六月山陽鐵道低價ノ際廣島地方ノ實況ニ徴シテ明ナリ假令幾部分タリトモ
如斯食亂不親切ナル奸宿アルトキハ誠實ナル營業ヲナス同業者一般又ハ我京
都市全般ノ名譽ニ關スルノミナラス延テ旅客ヲ困難セシムルニ付公衆ノ便益
ヲ計リ今日ヨリシテ該惡弊ヲ防禦セシカ爲メ本組合ヲ設立シタル儀ニ有之然
ルニ奈何セシ本組合ハ私設申合ヨリ成立タルヨリ彼ノ奸宿及ヒ私利ヲ圖リ公

益ヲ願ミサル所恐ノ輩殆ソト二百餘戸ハ組合ヘ加入セハ嚴正ナル規程ニ束縛セラレ窮屈ヲ感スルヨリ寧ロ反對ノ地位ニ立テ自儘ノ私利ヲ貪ルニ勝ルト何程誘引スルモ加入セス之レニ加フルニ正業者ノ通稱家號商標等ヲ侵シ又ハ宿料ノ競争及ヒ車夫道案内者等ト共謀シ甘言以テ旅客ヲ横取スルモノ亦少ナカラス抑モ我輩本組合設立ノ素志ハ市内一般ノ同業者ヲ以テ組合トシ組合員中ニ彼ノ不正ノ所爲ヲナスモノハ毫モ假借セス規約ニ照シ矯正セント欲スルニ外ナラサリシモ私設ナルヲ以テ強テ加入セシムルコトヲ得スシテ規約ノ本旨ヲ達スルコトヲ得サルナリ此上ハ明治十七年中ノ如ク組合設立加入スヘシトノ御布令御發布ニアラサルヨリハ我輩組合維持ノ功力モ無之候間此邊篤ト御賢慮ノ上我等ノ微志御採用完全ナル組合ニ相成候様其筋ヘ御執達被下度候也

附言組合ノ儀ハ土地重要品其他車夫ノ如キ者ニアラサルヨリハ命令ナシカ
 タキ越ハ萬々奉承知候得共當市ニ於ケル當業ハ他地方トハ關係ノ直接間接
 共ニ趣ヲ異ニシ當業ニハ殊別ノ御檢束アルモ決シテ適當ニアラサルコトハ
 各位ノ萬々御承知ノコトニ付贅言ヲ要セス

明治二十七年七月

京都宿屋業組合

組長 西村庄五郎

副組長 内田誠次

二十八年旅宿拂底見込書

一當市内上下京區當業者八百戸

内下宿屋木賃宿及待合料理外兼業者又ハ丹波口鞍馬口伏見街道或ハ偏僻ノ旅宿等三百ヲ除ク

全ク五百戸ニ不遇

一内外國人來京者十萬人ト假定シ

此人員三日間滞在ト見積リ三十萬人内三分ノ一即チ十萬人ハ親族知己ヘ止宿スルト見做シ

全ク二十萬人

之ヲ五百戸ノ旅宿ヘ配當スレハ

一戸ニ付平均五十人トトス

到底一戸五十人ノ旅客ヲ受クルコト能ハス尤モ當業者ニ大小廣狹アリト雖ト

モ先ツ平均一戸二十人位ノ見込ニテ至當ト想像ス然レハ現今旅宿ニテハ十分ノ四ヨリ旅客ヲ容ル、コト能ハス依リテ今ヨリ其準備ナカルヘカラス

二十八年旅宿ノ弊害

- 一一人又ハ少數同行ノ旅客ヲ嫌フ
- 一永ク滞在ノ旅客ヲ嫌フ

博覽會出品ノ爲出京ノ旅客ノ如キ殊ニ其厭フ所トナルモノナリ

一宿料騰貴

一飲食品ハ不頁不味ニ流ル

一食器夜具等ハ不足ヲ生スルヨリ不潔ニ

一旅客ノ待遇ヲ冷淡ニ

一客室ノ管理行届カサルヨリ賊難屢々起ラン

一旅舍ノ家族疲勞スルヨリ旅客指定ノ時間ヲ失ス

右今ヨリ防禦ノ策ヲ望ム

武徳會

桓武天皇大ニ武ヲ好ミ兵力ヲ養ヒ以テ南都文弱ノ弊ヲ矯メ蝦夷ヲ征服シ以テ東北ヲ平定シ給ヘリ又武徳殿ヲ宮西ニ建テ此ニ行幸シ常ニ武技ヲ御覽アリ故ニ當時武技大ニ行ハレ國力尤モ旺ンナリ今ヤ紀念祭ヲ行フニ當リ適レ征清ノ事アリ皇軍向フ所前ニ敵ナク武威天下ニ奮揚セシ時ニ會シ武徳會ヲ興シ平安神宮ノ近傍ニ武徳殿ヲ建築シ四方ノ武藝家ヲ會シ祭事ヲ行ヒ以テ神靈ヲ奉慰シ且以テ尙武ノ徳ヲ養ヒ併セテ古來ノ武技ヲ保續セント欲シ渡邊知事壬生宮司ト共ニ主唱トナリ同志ト共ニ其會ヲ組織シ規約ヲ定メ職員ヲ撰ミ旨趣書ヲ發行シ會員ヲ全國ニ募リシニ武官ハ論ナク士民有志者爭ヒテ之ニ入會シ府知事ヲ會長トシ平安神宮宮司ヲ副長トシ幹事評議員審判員等ヲ置キ小松宮殿下ヲ推シテ總裁ニ仰キ武徳會ノ組織此ニ成レリ同年ハ日月巳ニ迫リ武徳殿ハ建築ニ遑アラサルヲ以テ紀念祭ノ際武技ヲ演シ以テ祭事ヲ行フコトトシ十月二十五日平安神宮ニ於テ武徳祭ヲ執行シ同二十六日ヨリ三日間内國勸業博覽會場元工藝館北部ニ於テ其式ヲ舉行セリ二十六日總裁宮御臨場會長以下會スルモノ數百人先ツ其開會ノ式ヲ行ヒ連日各種ノ武技ヲ演シ優等者十餘人ニ賞狀ヲ贈與セリ總裁宮令旨及ヒ會長答

詞左ノ如シ

令旨

本會ハ其設立日猶淺シト雖トモ會員既ニ數萬ニ及ヒ今般全國ノ會員ヲ會シ第一回武徳祭ヲ執行シ各種ノ武技ヲ演スルニ至リタルハ本會ノ爲メニ欣喜スル所ナリ然レトモ本會ノ事業ハ遠大ナリ役員及會員ハ小成ニ安ンセス後來尙勵精シテ廣ク同志者ヲ求メ全國人士ノ武徳ヲ涵養スル目的ヲ達スル事ヲ勉メヨ

大日本武徳會總裁

明治二十八年十月二十六日

大勳位功二級彰仁親王

答詞

本會ハ明治二十八年十月二十五日全國ノ會員ヲ會シ第一回武徳祭ヲ執行シ續テ二十六日ヨリ三日間假武徳殿ニ於テ各種ノ武藝ヲ演シ桓武天皇ノ神靈ヲ慰メ奉レリ然レトモ本會設立日淺ク百事未タ緒ニ就カス僅カニ數萬ノ會員ヲ以テ此武徳祭ヲ執行シ本會目的中ノ一端ヲ表スルニ過キス其他ノ事業ハ尙廣ク同志者ヲ求メ其基礎ヲ固クシ難易ヲ審ニシ緩急ニ應ニ漸次施設ノ方法ヲ取ラサル可カラス今ヤ此演武會ノ開會ニ臨ミ我總裁殿下ハ優渥懇切ナル令旨ヲ賜

フ會員誰カ感奮興起セサランヤ各縣駘ニ鞭十心力ヲ盡シ事業ヲ恢弘シテ此優旨ヲ曠フセサラン事ヲ期ス謹ソテ會員ノ意ヲ表シ答辭ヲ呈ス

大日本武徳會副會長

明治二十八年十月二十六日

從二位勳三等伯爵壬生基修

其演セシ所ノ武技ハ二十六日ニハ擊劍競馬二十七日ニハ射的但シ大佛柔術弓日吉山術二十八日射的長刀槍術鎖鎌棒術等ナリ四方武藝家來集スルモノ數百人非常ノ盛會ナリ此ヨリ武徳會ハ益其規模ヲ廣メ武徳殿ノ建築モ將ニ其緒ニ就カントセリ

帝國教育大會

帝國教育大會ハ京都教育會ノ計畫ニ成レリ初メ明治二十八年ニ紀念祭ヲ執行シ且ツ内國勸業博覽會ヲ開設スルコトヲ決定セラル、ヤ京都教育會ハ委員ヲ撰定シ此際ニ於テ全國教育者ノ大會ヲ京都ニ開設スル事ヲ議定シ其準備ヲ爲シ二十八年三月渡邊府知事ヲ會長ニ推薦シ其趣旨及規則ヲ議定セリ其趣旨ハ教育ノ發達ヲ協議シ人材ヲ養成シ國運ヲ助長スルニアリテ其規則ノ要ハ本年四月二十三

日ナ期シ四日間本市ニ於テ大會ヲ開設シ皇族ヲ總裁ニ仰キ奉リ會長幹事評議員委員等ヲ置キ總會及ヒ部門會ヲ別ナ其事ヲ討論評議スルニアリ乃チ山階宮晃親王殿下ヲ總裁ト仰キ奉リ西園寺文部大臣ヲ名譽會員トシ其他夫々ノ職員ヲ定メ四月二十三日議事堂ニ於テ第一總會ヲ開ラキタリ來會スル者二千數百人先ツ總裁宮ノ令旨アリ御代理別當眞木渡邊會長符詞ヲ奉リ蜂須賀貴族院議長楠本衆議院議長渡邊府知事其他ノ祝詞并ニ實業團體代表者前田正名帝國博物館總長九鬼隆一文部次官牧野伸顯高等師範學校校長嘉納治五郎及稻垣滿次郎日下部三之助米國ノルスロツア氏ノ演說アリ第二總會ニハ普通學務局長木場貞長高等女子師範學校校長秋月新次郎文學博士井上哲次郎協贊會幹事西村捨三諸氏ノ演說アリ第三總會ニハ大日本教育會長辻新次衆議院議員田口卯吉諸氏ノ演說アリ且連日初等中等高等女子實業社會等ノ教育部門ニ別チ各所ニ開會シ其事ヲ討議セリ又懇親ノ爲メ園遊會ヲ圓山公園ニ開ラキ相共ニ歡ヲ盡シ益ヲ將來ノ協濟ヲ謀レリ今回ノ來會者合計實ニ二千八百餘名ノ多ニ及ヒ教育會ヲ開キシヨリ未タ此ノ如キ盛大ナル者アラスト云フ

五二會京都品評大會

初メ明治二十七年四月京都市ニ於テ始メテ第一回全國五二會ヲ開設シ爾後二十八年四月第二回ヲ再ヒ本市ニ開キ製産ノ改良進歩上ニ大裨益ヲ與ヘタリ是ニ於テ平安遷都紀念祭ノ盛典アリ内外ノ賓客輻湊ノ時ヲ機トシ京都五二會員及ヒ五二會贊助員各商工業有志者ノ製品ヲ蒐集シ衆庶ノ觀覽ニ供シ當業者ノ參考ニ資セントノ目的ヲ以テ二十八年十月十五日ヨリ十一月十五日マテ三十二日間舊勸業博覽會場工藝館ノ一部ヲ借用シテ之ヲ開設シ其名稱ヲ五二會京都品評大會ト稱シ經費ハ貳千四百五拾圓ト定メ約三分ノ二ヲ入場料收入及ヒ五二會各種部出金ニ資リ殘額八百圓ハ京都市ノ補助ヲ仰キ並ニ審査總長審査部長審査委員等ハ市參事會ヨリ囑托セラレシテ請願シテ其許可ヲ得タリ其規約十條ヲ定メ列品審査ノ上褒賞トシテ金銀銅牌及ヒ褒狀ヲ附與スルコトニ決シ其開場ハ十月十五日ノ管ナリシモ陳列品ノ増加等ニ因リ延期シ十七日ヲ以テ關係委員及ヒ官民有志者ヲ會シ其式ヲ舉ケ直チニ衆庶ノ觀覽ヲ許シタリ

開場中ハ恰モ小春ノ好時節ナルノミナラス紀念大祭舉行ノ時ニ際スルヲ以テ入場者非常ニ多ク好成績ヲ收メ十一月十日褒賞授與式ヲ行ヒ又餘興トシテ十一月

二十一日ヨリ二十五日マテ入場者ニ抽籤ヲ以テ景物ヲ贈與シ一層ノ盛況ヲ呈シ
同二十七日閉場式ヲ舉ケタリ開場日數ハ凡テ四十日ニシテ其成蹟ノ大概ハ閉場
式日主務委員長内貫甚三郎ヨリ報告シタル數表ニ因リ其景況ノ一斑ヲ知ルニ足
ルヲ以テ之ヲ左ニ録ス

委員長報告摘要

會場面積	三千五百五十坪
出品點數	十萬三千九百八十餘點
價額	拾壹萬五千七百七拾餘圓
陳列間數	千三百二十餘間
褒賞授與數	一等ヨリ三等ニ至ル四百三十九人 褒狀四百八十一人
來觀人數	六萬八千餘人
出品賣上高	參萬貳千五百餘圓

全國實業大會

第四回内國勸業博覽會開場中ハ全國ノ士民特ニ農工商業家ハ四方ヨリ爭ヒ來リ
都下ニ輻湊セシヲ以テ京都五二會本部ハ全國實業大會ノ計畫ヲ立テ其趣旨ヲ發
布セシニ同志者翕然トシテ之ニ赴キ會同スルモノ數百千人是ニ於テ其規約ヲ立
テ其議件ヲ定メ四月ヨリ七月ニ至リ或ハ合シテ一大團ト爲リ或ハ分レテ各種別
ノ會合ト爲リ物産ノ繁殖製造ノ改良販路ノ擴張等ニ就キ各自ノ實驗ニ據リ其意
見ヲ開陳シ討論質疑シテ實業上ノ智識ヲ交換シ相互裨益セシコト極メテ多シ今
其會合ノ著シキモノヲ左ニ舉示スヘシ

- 全國菓子業共進會
- 全國醬油大會
- 全國水産會
- 全國農事大會
- 全國蠶絲業大會
- 月曜會
- 全國綿子ール大會
- 全國酒造大會
- 全國密業協會
- 全國藥學共進會
- 全國鑛寸大會
- 全國五二會大會
- 農事實業談話會
- 全國茶業大會

- 全國貿易協會大會
- 漆工會京都部會
- 全國一政聯合會
- 全國畜産大會
- 全國歌謠大會
- 全國家禽協會

時代品展覽會

平安遷都千百年紀念祭ヲ舉行スルニツキテハ京都已來千百年ノ久シキヲ經過セ
 ヲ國史ノ事實及ヒ美術工藝ノ沿革ヲ考明シテ以テ文化開進ノ跡ヲ表示スル事ハ
 已ニ紀念祭旨趣書ニ掲ケタリ九鬼總長ハ平安神宮創立ニ付テハ時代館ヲ築キ歷
 世ノ物品ヲ陳列シテ之ヲ公示スヘキノ意見アリシモ費用浩濶俄カニ辨シカタク
 ナリテ時代館ノ事ハ行ハレサリシモ時代品展覽ノ舉ハ大ニ賛成ヲ得テ京都博覽
 協會ニテ之ヲ開設スル事トナリ參事會ヘ補助金交附ノ事ヲ請願セリ參事會ニ於
 テモ其事ヲ可トシ市會ニ附議シ時代品展覽會補助費金千四百七拾六圓五拾六錢
 ヲ支給スル事ヲ議決シ博覽會場ニ於テ三月十六日ヨリ六月二十二日マテ百日間
 之ヲ開設スル事トナレリ其時代部類ヲ分ツ左ノ如シ

陳列區域

- 第一區 弘仁及藤原時代
- 第二區 鎌倉及足利時代
- 第三區 豐臣時代
- 第四區 徳川時代
- 第五區 浮世畫
- 第六區 唐宋元明清
- 第七區 明治大家ノ製作品

因テ其旨趣書ヲ廣告シ賛成ヲ求メシニ京都地方ノミナラス東京大阪其他各地方
 ヲリ賛成者多ク秘藏ノ什寶貴重ノ名物ヲ千里出品シテ以テ縱覽ニ供セシモノ少
 カラス上ハ南都以前ヨリ下ハ明治ノ昭代ニ及ヒ外ハ周漢ノ古物ヨリ明清ノ名物
 ニ至ルマテ幾百千點ナルヲ知ラス姿態百出式様千種時勢ノ推遷風尚ノ變化意匠
 ノ精粗工藝ノ巧拙之ヲ一目ノ下ニ瞭然スルヲ得テ實ニ希世ノ壯觀ナリ物品ノ多
 キ一時ニ展陳スヘカラサルヲ以テ凡一週間ニ交換シテ之ヲ陳列セリ從來美術品
 ノ展覽會ハ多クレト時代ニ分ナテ之ヲ陳列セシハ實ニ今回ヲ以テ始メトス五月
 二十七日皇后陛下行啓アリテ列品御覽アリ開會中通券賣高五千四百貳拾九圓七

拾五錢來觀人十二萬百二十九人而シテ賣品個數ハ五萬六千七百七十四個ニシテ代價ハ金壹萬參千參百圓六拾五錢六厘ナリ協會ヨリハ其目錄ヲ作り説明ヲ附シ其優等品ハ寫眞石版トナシ之ヲ挿入シ以テ四方ニ分ナタリ第一號ヨリ第六號ニ至ル六冊アリ

新古美術品展覽會

第四回内國勸業博覽會ハ豫期ノ如ク閉場ヲ告クルト雖トモ十月ニハ紀念祭ノ舉行アリ京都美術協會ハ此時ヲ以テ新古ノ美術品ヲ列陳シ觀覽者ヲシテ今昔ヲ參酌シ得失ヲ對照シ美術上ノ智識ヲ研磨セシメ並ニ祭儀ノ盛觀ヲ添ヘントノ趣旨ヲ以テ新古美術品展覽會ヲ計畫シ官民一致ノ賛成ヲ得テ之ヲ舊博覽會場美術館ニ開設スルコトニ決シ其主旨書ヲ發布スルニ及ヒ四方響應社寺名家爭フテ其秘珍ヲ出シ列展ヲ乞フモノ幾百千ヲ知ラス是ニ於テ陳列排置畧ホ成ルヲ以テ十月十五日ヲ以テ開場シ一般ノ觀覽ヲ許シタリ其出品ハ前述ノ如ク各社寺及諸名家ノ重寶並ニ名匠ノ慘怛經營ヲ費シタル新製美術品ヲ陳列シタルモノナレハ殷鼎周彝依金鏤珠種々色々目ヲ轉シテ皆不賞ノ珍奇ニ非サル無ク出品ノ意外ニ多ク館

内狹隘ヲ感スルヨリ順次交換シテ閉場ニ至ルマテ漸ク悉ク之ヲ陳列スルコトヲ得タリ開場未タ幾日ナラスシテ紀念祭ノ大典アリ其他市内外ノ餘興屈指ニ暇アラズ滿都ハ一時大熱鬧場ト爲リ隨ツテ展覽會入場者モ益多ク非常ノ盛況ヲ呈シ十一月十五日閉場スヘキヲ十日ヲ延長シ十一月二十五日ヲ以テ閉場シタリ今其景況ノ一斑ヲ知ラシムル爲メ其出品點數入場人員其他新製品販賣ノ數目價額ヲ左ニ表示ス

- 一古美術品點數 六百八十點
- 一新美術品點數 二千八百四點
- 一新美術品販賣點數 一千百三十點
- 一新美術品販賣金額 金貳千五百圓七拾八錢五厘
- 一開場中看觀人數 一萬四千三百一名
- 一入場料 金七百五拾貳圓六拾參錢

青年繪畫共進會

繪畫ノ盛衰消長ハ各種工藝製作ニ影響ヲ及ホスコト大ニシテ殊ニ青年畫家ハ後

來美術工藝世界ニ立チ益我邦固有ノ所長ニ光輝ヲ發セシムヘキ重任アルモノナ
 レハ紀念祭大典ヲ期トシ青年繪畫共進會ヲ開設セントテ京都博覽協會之カ發起
 ト爲リ二十八年十月十日ヨリ十一月十五日マテ日數三十七日間御苑内京都博覽
 會場ニ於テ開場スルコトニ決シ其密查褒賞ニ係ル費用ハ市費ヨリ支辨シ并ニ褒
 賞ハ市參事會京都府知事名ヲ以テ之ヲ授與セラシメテ出願シ其許可ヲ得テ
 豫期ノ如ク十月十日ヲ以テ開場式ヲ舉ケ列品ニハ青年畫家ノ揮毫セシモノ、外
 參考品トシテ諸家秘藏ノ畫幅數十點ヲ列掲セシカハ來觀者極メテ多ク其後餘興
 トシテ有名畫家ノ席上揮毫及ヒ挿花會等ヲ催シタルヨリ一層入場者ノ數ヲ増シ
 非常ノ盛況ヲ致シタリ

其褒賞授與式ハ十一月十一日之ヲ舉行シ審查長山高信離ハ審查廣告書ヲ朗讀シ
 府知事代理書記官本部泰告辭ヲ朗讀シ出品者總代竹内櫻風答辭ヲ述ヘ各出品人
 ニ銀、白銅、銅三等ノ賞牌并ニ一等ヨリ二等ニ至ル及ヒ幼年者ニ對スル褒狀等ヲ授
 與シ其式ヲ畢リ十一月十五日閉場セリ其成績ノ大概ハ左ノ如シ

出品點數 六百二十四點

出品人府縣別 三府十五縣

賞牌受領者 二十五名
 褒狀受領者 七十六名
 來觀人 八千六百二十名

六書會

六書會ハ青年繪畫展覽會ノ時博覽會場前館ニ於テ開設セリ近來社會ノ事業益頻
 雜ニナリ書學ヲ專習スルノ暇ナク隨テ斯道ノ漸々淺薄ニ流ル、ヲ憂ヒ此會ヲ發
 起セリ會主ハ岩本範治本田退菴等ニシテ全國書家ニ照會シ其出品ヲ促カシタリ
 三府其他有名ナル書家ハ各揮毫シテ之ヲ出品シ篆隸楷行草書假名文字ノ六種ニ
 シテ古來各流ニ至ルマテ大凡備ラサルナシ互ニ巧拙精粗ノ差ナキアタハサルモ
 書体ヲ具備シテ陳列セシハ近年無キ所ナリ

紀念祭祀專畧表

明治二十五年五月起ル

五月		六月		七月	
十三日	京都開市紀念祭舉行ノ事ヲ確井小三郎ヨリ實業協會ニ建議ス	十三日	初メテ委員會ヲ府廳ニ開キ内實甚三郎委員長ト爲ル	三日	紀念祭博覽會京鶴鐵道三事件ノ爲メ商工同盟會ノ組織成ル
十九日	京都開市紀念祭舉行ノ事ヲ實業協會ヨリ市參事會ニ建議ス	二十九日	市參事會ニテ内實甚三郎西村治兵衛西村七三郎ノ三名ヲ紀念祭委員ニ舉ク	八日	三事件計畫ノ爲メ商業會議所内ニ同盟會事務所ヲ置ク
二十四日	市參事會ハ實業協會ノ建議ヲ受理シ市會ニ附議スルコトヲ決議ス	二十八日	市會ニテ兩森菊太郎東枝吉兵衛中野忠八確井小三郎ノ四名ヲ紀念祭委員ニ舉ク	二十一日	初メテ紀念祭委員會ヲ商業會議所内ニ開ク <small>以下委員會ハ定日ニ之ヲ開クモノ々々記セズ</small>
二十五日	紀念祭ト共ニ大博覽會ヲ京都ニ開カンコトヲ實業協會ヨリ市參事會ニ建議ス	二十六日	市會ニテ四十號議案ヲ以テ紀念祭執行調査委員ヲ置クコトヲ可決ス	二十六日	市會ニテ濱岡光哲中村榮助久世通章ノ三名ヲ舉ク紀念祭委員ト爲シ凡テ十名ト

月	八	九	十
二十八日	ス	濱岡中村同盟會員ヲ共樂館ニ會シ東上中ノ模様ヲ報告ス	
三日	同盟會紀念祭委員各所ニ演說ス		
五日	第四回内國勸業博覽會ハ京都ニ開ク旨其筋ヨリ内報アリ		
十七日	總會ニテ濱岡委員東上中ノ模様ヲ報告ス		
十八日	久世濱岡委員祭日其他取調ノ爲メ東寺ニ出張ス		
十九日	東枝確井委員舊記取調ノ爲メ長岡ノ菰都地ニ出張ス		
二十三日	濱岡雨森委員東京ヨリ歸リ事情ヲ市會ニ報告ス		
二日	委員等博覽會敷地ニ充ツル爲メ岡崎町ノ地所ヲ一覽ス		
七日	總會ニテ博覽會敷地ノ件ヲ談議ス東京有志者其地ニ博覽會開設ノ計畫ヲ爲ス		
十一日	大阪有志者其地ニ博覽會開設ノ計畫ヲ爲ス		
十四日	濱岡中村(榮助)東上ス		
二十三日	市會ニテ四十號議案ヲ取消シ更ニ紀念祭ヲ市事業ト爲シ執行スル事ヲ議決ス		
同日	雨森東枝紀念祭事件ノ爲メ東上シ濱岡ハ九州中國へ中野ハ四國へ中村(榮助)尾勢地方へ出張ス		

月	十	一	二十
二十五日	今日ヨリ上下京區有志者ヲ集メ紀念祭ノ事ヲ談話シ二十八日ニ至ル		
一日	東京ニ於テ紀念祭協賛會ノ組織成ル		
八日	總會ニテ雨森東枝委員東京事情ヲ報告ス		
十五日	府知事上下京區有力者四十三名ヲ招キ協賛會設立ノ事ヲ謀ル		
十七日	協賛會創立發起人會ヲ中村樓ニ開ク		
十八日	協賛會創立員會ヲ開ク		
二十三日	市會ニテ紀念大祭舉行日行幸請願ノ件ヲ可決ス		
二十四日	協賛會會員募集ノ爲メ有志者數百名ヲ會議所ニ集メ協議ス		
二十六日	西村七三郎東枝吉兵衛行幸請願書捧呈ノ爲メ東上ス		
十一日	衆議院豫算委員會ニテ博覽會費金五拾四萬圓ヲ可決ス		
十三日	確井小三郎博覽會ノ件ニテ堺市役所及商業會議所ニ出張ス		
十四日	衆議院博覽會費豫算四拾萬四千九百八拾貳圓ト議決ス		
十九日	博覽會ニ充ツヘキ地所其他ノ件ニ付市會協議會ヲ開ク		

明治二十六年

一月		二月		三月	
十日	四日ヨリ此日ニ至リ委員確井小三郎中村榮助委員長内貨三郎相尋テ東上ス	十一日	衆議院ニ於テ博覽會ヲ京都ニ開クコトヲ可決ス	六日	市會ニテ二十八號議決ヲ可決シ紀念祭委員ノ組織ヲ改ム委員ニ市會ヨリ確井爾
二十七日	總會ニテ委員長ヨリ東上中ノ報告アリ	二十日	總會ニテ委員組織變更ノ事ヲ決議シ之カ調査ニ著手ス	八日	森中村(榮助)東枝濱岡久世山本ノ七名撰舉セラレ翌日市公民ヨリ西村義民堀五
十四日	總會ニテ委員組織變更ノ事ヲ決議シ之カ調査ニ著手ス	二十六日	貴族院ニテ博覽會費ハ衆議院ノ通可決ス	十日	郎兵衛貞廣太郎村田榮次郎矢野長兵衛ノ五名撰舉セラル
十四日	各部ノ分擔定マリ始メテ式典編纂會ヲ開ク	十二日	博覽會敷地ノ件ニ付緊急市會ヲ開ク	八日	博覽會敷地撰定ノ爲メ委員大佛今熊野舟岡北野吉田等ニ出張ス
十四日	紀念祭協賛會規約ヲ議決ス	十日	紀念祭事務所分科並ニ委員分擔ヲ議定ス	十日	紀念祭事務所分科並ニ委員分擔ヲ議定ス
		十二日	臨時總會ヲ開キ事務分科並細則ヲ議定ス		
		十四日	各部ノ分擔定マリ始メテ式典編纂會ヲ開ク		

四月		三月		二月	
十七日	協賛會創立委員會ヲ開キ協賛會ニテ舉行スル事目ヲ議定ス	二十七日	總會ニテ府廳官吏其他報酬ノ事經費豫算ノ事又各地出張勧誘ノ事ニ議決ス	二十七日	府知事委員等停車場岡崎町間ノ道路ヲ質檢ス
十八日	府廳ニ屬スル紀念祭及博覽會ニ係ル委員ノ分科定マル	三十日	總會ニテ土木分擔事業ヲ調査シ市參事會ニ照會ス	二十七日	總會ニテ府廳官吏其他報酬ノ事經費豫算ノ事又各地出張勧誘ノ事ニ議決ス
二十四日	總會ニ於テ濱岡東枝委員協賛會總裁宮會長ヲ推撰シ各大臣ニ入會ヲ求メ且寄附	三日	紀念祭ノ爲ニ協賛會幹事西村捨三來京ス	三十日	總會ニテ土木分擔事業ヲ調査シ市參事會ニ照會ス
	金等ノ事ニ付東上ノ事ヲ決ス		委員會ニテ委員近府縣遊説ノ事ヲ議定ス	三日	紀念祭ノ爲ニ協賛會幹事西村捨三來京ス
			勅令第十六號ニテ第四回内國勸業博覽會ヲ京都市岡崎町ニ開設ノ事ヲ公布セラ	六日	共樂館ニ大ニ市民ヲ集メ紀念祭ニ係ル西村幹事ノ演說アリ
			ル	六日	濱岡東枝雨森委員東上ス
				十一日	式典編纂委員會ニテ府委員湯本文彦平安通志編纂大極殿造營ノ建議ニ對シ審議
				十一日	ス

十二月	總會ニテ府廳委員ヲ各部ニ配シ其分科ヲ定ム凡二十二入 勸業博覽會場敷地買收順序ヲ定ム
十三日	西村幹事堀委員ト中國ヨリ歸リ直ニ報告會ヲ開キ來二十日各地委員ヲ招集スル 事ヲ議決ス
十五日	式典編纂部會ニテ府委員湯本文彦立案紀念祭按ニツキ神殿建立設計ヲ土木掛ニ 托ス
十六日	同人建議ニツキ平安通志編纂豫算設計案ヲ同人ニ托ス 總會ニテ土木部擔當事項處理法ヲ議決ス
十八日	來二十日近府縣聯合委員會ニ附スル條件ヲ議決ス 委員會并協贊會發起人會ニ於テ會長ニ近衛公爵ヲ撰定ス
二十日	各地ノ委員ヲ府廳ニ集メ西村幹事座長トナリ協議會ヲ開ク翌日決議會ヲ大雲院 ニ開キ聯合經畫ノ大体定ル
二十三日	小松宮及佐野協贊會副長來京アリ
二十四日	神職僧侶ヲ府廳ニ招キ西村幹事紀念祭ノ事ニ付演説ス 總會ニテ博覽會事務局ノ通牒ニヨリ敷地設計ヲ議ス

月	五	月
二十六日	三	二十六日
二十七日	四	二十七日
二十八日	五	二十八日
三	六	三
四	七	四
八	八	八
九	九	九
十	十	十
十二日	十一	十二日
十四日	十二	十四日
十六日	十三	十六日
十九日	十四	十九日
二十日	十五	二十日
二十五日	二十	二十五日
紀念祭諸費ハ地方税ニモ關スルヲ以テ府市會議員相共ニ豫算上ノ協議ヲナス	市參事會員紀念祭委員ノ協議會ヲ開ク	小松宮殿下ヲ紀念祭協贊會有志者ヨリ招待ス
大内裏遺跡調査ノ爲メ委員及調査主任湯本文彦等實地ニ出張ス	式典編纂接待部會ヲ開キ大極殿ノ設計ヲ議ス	西村幹事ハ碓井田村山本委員ト彦根岐阜ニ赴ク
協贊會始メテ寄附金募集ヲ有樂館ニ行フ	協贊會創立委員會ヲ開ク	市參事會員市會議員紀念祭委員ノ協議會ヲ開ク
總會ニテ紀念祭經費案ヲ議ス	中村(榮助)委員東上ス	市參事會員紀念祭委員ノ協議會ヲ開ク
大極殿設計案ヲ在東京ノ中村(榮助)委員ニ送ル	總會ニテ紀念祭豫算ヲ調査ス	西村幹事ハ碓井田村山本委員ト彦根岐阜ニ赴ク
兩森委員歸京大極殿建築ニ付東京ニテ協贊會協議ノ事情ヲ報告ス	總會ニテ紀念祭經費案ヲ議ス	市參事會員市會議員紀念祭委員ノ協議會ヲ開ク
紀念祭諸費ハ地方税ニモ關スルヲ以テ府市會議員相共ニ豫算上ノ協議ヲナス	大極殿設計案ヲ在東京ノ中村(榮助)委員ニ送ル	西村幹事ハ碓井田村山本委員ト彦根岐阜ニ赴ク
協贊會始メテ寄附金募集ヲ有樂館ニ行フ	兩森委員歸京大極殿建築ニ付東京ニテ協贊會協議ノ事情ヲ報告ス	市參事會員市會議員紀念祭委員ノ協議會ヲ開ク
總會ニテ紀念祭經費案ヲ議ス	總會ニテ紀念祭豫算ヲ調査ス	西村幹事ハ碓井田村山本委員ト彦根岐阜ニ赴ク
大極殿設計案ヲ在東京ノ中村(榮助)委員ニ送ル	西村幹事ハ碓井田村山本委員ト彦根岐阜ニ赴ク	市參事會員市會議員紀念祭委員ノ協議會ヲ開ク
兩森委員歸京大極殿建築ニ付東京ニテ協贊會協議ノ事情ヲ報告ス	市參事會員市會議員紀念祭委員ノ協議會ヲ開ク	西村幹事ハ碓井田村山本委員ト彦根岐阜ニ赴ク
紀念祭諸費ハ地方税ニモ關スルヲ以テ府市會議員相共ニ豫算上ノ協議ヲナス	總會ニテ紀念祭豫算ヲ調査ス	西村幹事ハ碓井田村山本委員ト彦根岐阜ニ赴ク

六	七
三 日	十一 日
是ヨリ先キ紀念祭事務所ハ假リニ商業會議所ニ置キ、此日上海區車屋町御池上ル町ニ移ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
五 日	二十 日
委員ノ事務分擔ヲ議定ス	商業會議所ニ博覽會委員ヲ設ク
六 日	十八 日
博覽會敷地買收調印終ル	濱岡委員歸京東京協贊會事情ヲ委員會ニ報告ス
七 日	十九 日
博覽會敷地買收ノ爲メ出張所ヲ西方寺ニ設ク	近衛公爵來京ニ付臨時總會ヲ開ク
八 日	二十 日
在東京濱岡委員ヨリ紀念殿ニ對シ下賜金ノ旨電報ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
九 日	二十 日
内貴委員長下賜金ノ事ニ付東上ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
全貳萬圓ヲ協贊會ヨリ紀念殿敷地代價其他ニ充ツル目的ヲ以テ本市ニ寄附ノ事ヲ市參事會ニ出願ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
十一 日	二十 日
大極殿敷地トシテ岡崎町廣道以東ノ土地(五號地)買收ノ調査ニ著手ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
紀念祭式日ヲ來二十八年四月三十日ト定ムル事ヲ市參事會ニテ議決ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
十三 日	二十 日
金貳萬圓ヲ協贊會ニ下シ賜ヒ、事ニ付總會ヲ開キ内貴委員長ヨリ之ヲ報告ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
十八 日	二十 日
濱岡委員歸京東京協贊會事情ヲ委員會ニ報告ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
二十 日	二十 日
商業會議所ニ博覽會委員ヲ設ク	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス
十一 日	二十 日
博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス	博覽會敷地買收ナリ代金ヲ交附ス

八	月
十八 日	總會ニテ米國へ廣告ノ件ヲ議決ス
十九 日	近衛公爵來京ニ付臨時總會ヲ開ク
二十 日	市會ニテ六十一號同六十二號議案ヲ以テ紀念祭博覽會諸費ヲ議決ス
二十 七 日	市會協議會ニ於テ五號地買收ニ關スル事情ヲ委員ニ報ス
三十 一 日	總會ニテ五號地ノ件終局ス
一 日	西方寺出張所ヲ銅駝校ニ移ス
三 日	總會ニテ平安通志編纂事務規程及編纂綱領ヲ議決ス
五 日	大極殿ヲ西面又ハ南面トスル件ニテ近衛會長ヨリ關係者一同ヲ集メ協議ス
六 日	大極殿ヲ南面トスル件ニテホタルニ於テ市參事會議員ノ協議會ヲ開ク
八 日	總會ニテ地鎮祭執行ノ事ヲ決シ該委員ヲ設ク
九 日	尾越書記官ヲ平安通志編纂事務長トシ湯本文彦ヲ其主事ト定ム
十 六 日	博覽協會内ニ地鎮祭事務所ヲ設置ス
二十 三 日	南面ノ件ニ付諸方ヨリ建議アリ
二十 四 日	總會ニテ南面ニ建築スルコトニ決ス
二十 四 日	市會ニ於テ南面ニ決シ並ニ地所交換ノ件ヲ可決ス

昭和十一年八月

九		十	
二十九日	總會ニテ農商務大臣ヨリ博覽會敷地交換ノ件總局ノ旨指令アリシコトヲ報告ス	六日	宮内大臣大極殿及博覽會敷地ヲ一覽ス
一日	編纂部會ヲ府廳内ニ開キ平安通志編纂部ヲ假ニ府廳内ニ開クコトトス	七日	總會ニテ編纂部事務所ヲ特ニ室町九太町下ル道場町二十一番戸湯本文彦ノ宅ニ シテ之ヲ寓サシム
三日	大極殿地鎮祭ヲ舉行ス	八日	榎武天皇御宸影拜觀ノ爲メ内貴委員長雨森確井委員延曆寺ニ出張シ榎原長敏ヲ シテ之ヲ寓サシム
四日	紀念祭委員ヨリ近衛會長峰須賀評議員西村幹事ヲ吉水園ニ招キ事ヲ議ス	九日	協贊會長以下應天門龍尾壇大極殿繩張ノ爲メ出張ス
五日	敷地交換許可アリシヨリ事務官葺原清風實地ヲ檢分ス	十日	有栖川總裁宮大極殿敷地ヲ巡視ス會長委員長等先導ス
六日	府廳内ニ編纂部會ヲ開キ平安通志事目ヲ議定ス	十一日	大極殿建築請負清水組ニ落札ス
七日	地鎮祭ノ餘興太々盛ソナリ	十二日	榎武天皇御宸影拜觀ノ爲メ内貴委員長雨森確井委員延曆寺ニ出張シ榎原長敏ヲ シテ之ヲ寓サシム
八日	地鎮祭ノ餘興本日ヲ以テ終ル	十三日	市參事會議所ニ各社寺關係者ヲ招キ修繕ノ事ヲ勸奨ス
九日	協贊會長以下應天門龍尾壇大極殿繩張ノ爲メ出張ス	十四日	雨森委員湯本主事田中勸兵衛平安通志ノ件ニ付東上ス
十日	有栖川總裁宮大極殿敷地ヲ巡視ス會長委員長等先導ス	十五日	大極殿并平安京舊址實測ニ著手ス
十一日	大極殿建築請負清水組ニ落札ス	十六日	市參事會府廳ヨリ參列スル紀念祭委員ヲ定ム
十二日	榎武天皇御宸影拜觀ノ爲メ内貴委員長雨森確井委員延曆寺ニ出張シ榎原長敏ヲ シテ之ヲ寓サシム	十七日	紀念祭事務所ヲ妙滿寺ニ移轉シ平安遷都紀念祭事務所ト改稱ス
十三日	市參事會議所ニ各社寺關係者ヲ招キ修繕ノ事ヲ勸奨ス	十八日	總會ニテ初メテ大極殿ノ後ニ小安殿ヲ建テ神社トナサントノ建議アリ
十四日	雨森委員湯本主事田中勸兵衛平安通志ノ件ニ付東上ス	十九日	總會ニテ雨森久世委員東上中平安神社ノ建築ハ佐野副會長最モ主張アリ因テ五 號地ハ祭後賣却シ社殿保存費ニ充ツル事協贊會費目中慶宴費壹萬圓ヲ社殿建築 費トシ慶宴ハ本市ニテ引受クルニ決セシコトヲ報告ス
十五日	大極殿并平安京舊址實測ニ著手ス	二十日	雨森委員ヨリ平安通志編纂事件ニ付東京情況ヲ報告ス
十六日	市參事會府廳ヨリ參列スル紀念祭委員ヲ定ム	二十一日	敷地ニ通スル橋梁架設ノ爲メ土木部委員實地ヲ調査ス
十七日	紀念祭事務所ヲ妙滿寺ニ移轉シ平安遷都紀念祭事務所ト改稱ス	二十二日	編纂部接待部會ニ於テ初メテ案内記編纂ノ議起ル
十八日	總會ニテ初メテ大極殿ノ後ニ小安殿ヲ建テ神社トナサントノ建議アリ	二十三日	市參事會ヨリ二十八年公衆衛生ノ爲メ醫師ニテ委員ヲ擔任ス
十九日	總會ニテ雨森久世委員東上中平安神社ノ建築ハ佐野副會長最モ主張アリ因テ五 號地ハ祭後賣却シ社殿保存費ニ充ツル事協贊會費目中慶宴費壹萬圓ヲ社殿建築 費トシ慶宴ハ本市ニテ引受クルニ決セシコトヲ報告ス	二十四日	
二十日	雨森委員ヨリ平安通志編纂事件ニ付東京情況ヲ報告ス		
二十一日	敷地ニ通スル橋梁架設ノ爲メ土木部委員實地ヲ調査ス		
二十二日	編纂部接待部會ニ於テ初メテ案内記編纂ノ議起ル		
二十三日	市參事會ヨリ二十八年公衆衛生ノ爲メ醫師ニテ委員ヲ擔任ス		
二十四日			

十		月	
九日	事務所ニ衛生部ヲ置キ衛生ノ事ヲ掌ラシム	九日	置ク
十日	市參事會議所ニ各社寺關係者ヲ招キ修繕ノ事ヲ勸奨ス	十日	雨森委員湯本主事田中勸兵衛平安通志ノ件ニ付東上ス
十一日	大極殿并平安京舊址實測ニ著手ス	十一日	大極殿并平安京舊址實測ニ著手ス
十二日	市參事會府廳ヨリ參列スル紀念祭委員ヲ定ム	十二日	市參事會府廳ヨリ參列スル紀念祭委員ヲ定ム
十三日	紀念祭事務所ヲ妙滿寺ニ移轉シ平安遷都紀念祭事務所ト改稱ス	十三日	紀念祭事務所ヲ妙滿寺ニ移轉シ平安遷都紀念祭事務所ト改稱ス
十四日	總會ニテ初メテ大極殿ノ後ニ小安殿ヲ建テ神社トナサントノ建議アリ	十四日	總會ニテ初メテ大極殿ノ後ニ小安殿ヲ建テ神社トナサントノ建議アリ
十五日	總會ニテ雨森久世委員東上中平安神社ノ建築ハ佐野副會長最モ主張アリ因テ五 號地ハ祭後賣却シ社殿保存費ニ充ツル事協贊會費目中慶宴費壹萬圓ヲ社殿建築 費トシ慶宴ハ本市ニテ引受クルニ決セシコトヲ報告ス	十五日	雨森委員ヨリ平安通志編纂事件ニ付東京情況ヲ報告ス
十六日	雨森委員ヨリ平安通志編纂事件ニ付東京情況ヲ報告ス	十六日	敷地ニ通スル橋梁架設ノ爲メ土木部委員實地ヲ調査ス
十七日	敷地ニ通スル橋梁架設ノ爲メ土木部委員實地ヲ調査ス	十七日	編纂部接待部會ニ於テ初メテ案内記編纂ノ議起ル
十八日	編纂部接待部會ニ於テ初メテ案内記編纂ノ議起ル	十八日	市參事會ヨリ二十八年公衆衛生ノ爲メ醫師ニテ委員ヲ擔任ス
十九日	市參事會ヨリ二十八年公衆衛生ノ爲メ醫師ニテ委員ヲ擔任ス	十九日	
二十日		二十日	
二十一日		二十一日	
二十二日		二十二日	
二十三日		二十三日	
二十四日		二十四日	
二十五日		二十五日	
二十六日		二十六日	
二十七日		二十七日	
二十八日		二十八日	
二十九日		二十九日	
三十日		三十日	
三十一日		三十一日	

一	十七日	總會ニテ平安神宮造營ノ議アリ紀念殿敷地ハ無代價ニテ本市ヨリ協賛會ニ下渡シ神宮官社ニ列セラル、時ハ先ニ協賛會ヨリ寄附セシ金貳萬圓ヲ返却シ其保存費ニ充テ紀念祭ニ係ル擾害費ハ本市ニテ引受ル事等ヲ協賛會ニ訂約スルニ議決ス
	二十四日	協賛會ニ神宮敷地ヲ附シ金貳萬圓ヲ返附スルノ件ヲ市參事會ニテ議ス
	二十八日	總會ニテ和文案内記編纂例ヲ議決ス
	二十九日	市會協賛會ニテ神宮造營ノ爲メ貳萬圓返附ノ件ニ付調査委員ヲ置ク 衛生部會ヲ開キ公衆衛生事項ヲ議定シ參事會ニ上申スルコトニ決ス
十	五日	市會協議會ヲ開キ返附金ニ係ル報告アリ
	八日	委員長委員等東寺ヨリ千本ヲ北上シ實測ノ成績ヲ見ル
	九日	市會九十三號議案貳萬圓ト地所一萬六百四十五坪交附ノ件否決セシカ更ニ建議者アリテ成立シ再ヒ調査委員ヲ置ク
	十二日	市會九十三號議案ヲ調査委員ヨリ修正ナシ之ヲ市會ニ報告セリ
	十三日	協賛會ヨリ市會議員市參事會員ヲ中村樓ニ召集シ協議スル所アリ 協賛會交渉ノ爲メ内貴委員長東枝參事會員等東上ス

二	十九日	協賛會ヨリ議員市參事會員ヲ中村樓ニ集メ内貴委員長及東枝委員東上中ノ情況ヲ報告ス
	二十日	總會ニテ給水ノ鐵管ハ海外ニ注文スル議起ル
	二十一日	紀念祭ニ從事スル府更其他ニ慰勞ヲ給附スル事ヲ議決ス 市會九十三號議案ハ修正案ノ通可決確定シ地所ト金圓ヲ協賛會ニ附スル約束ヲナスコトニ決ス
月	二十六日	總會ニテ和文案内記ハ條件ヲ定メ編纂部事業トナス事ヲ議決ス
	二十八日	編纂接待部會ニテ英文案内記ハ市原宏盛ニ托スル議アリ

明治二十七年

一	十日	平安神宮建設ノ事ニ付紀念祭委員長ヨリ協賛會ニ其確否ヲ問合ス
		土木部會ニテ水道鐵管受橋梁工事請負廣告ノ件并ニ鐵管買入ニ付大阪川口居留地十番館フアブルブランド商會ヘ受負高佛貸壹萬千參百五拾法ニテ命スル件ヲ議決ス
	十二日	總會ノ決議ニ依テ公衆衛生ニ關スル諸件ヲ市參事會ニ上申ス

二		月	
十五日	平安神宮建設ニ付参考ノ爲メ協賛會幹事及内貴委員長主任委員等白峰北野上下加茂各神社ニ出張ス	十六日	協賛會臨時幹事會ヲ開キ各幹事紀念祭委員長建築主任技師等出席シ平安神宮建築ニ係ル件ヲ議ス
十七日	總會ニテ大内裏遺跡調査ニ付主任湯本文彦高田平次ヨリ報告ス延暦寺勅封桓武天皇御像寫成ル	二十九日	二十三日總會ニテ英文案内記編纂ノ事ヲ議決ス
二十四日	紀念殿敷地實況及雛形實見ノ爲メ本日委員長主任委員等同敷地へ出張ス	二十七日	部會ニテ和文案内記及英文案内記ノ事ヲ議ス
二十九日	總會ニテ社寺及勝地補助金下渡手續並ニ個所仕様等ヲ議決ス	三十日	部會ニテ英文案内記編纂ニ關シ市原宏盛トノ契約案ヲ議決ス
三十一日	總會ニテ和文案内記事務規定ヲ議シ編纂員中野太郎ヲ其主任ト爲ス	六日	總會ニテ全國鐵道汽船割引ノ事ヲ照會スルニ決ス
十三日	宮内大臣祕書官齋藤桃太郎へ紀念祭ニ係ル式典取調方依頼ノ書面ヲ發ス	十六日	總會ニテ紀念祭式第一案編纂主事湯本文彦提出ニ係ル事件ヲ議ス

三		月	
二十六日	市會ニテ社寺修繕補助諮問ノ件可決ス以下之ヲ略ス	二十八日	總會ニテ神戸馬場間鐵道複線設置及流車速力増進ニ係ル上申書ヲ市參事會へ送ル
一日	衛生事務囑托員ヲ定ム	十三日	總會ニテ紀念殿正面架橋位置及和文案内記挿畫揮毫者ヲ撰定シ製本体裁等ヲ定ム
十四日	第四回内國勸業博覽會入場券ノ賣捌人ノ撰定ハ京都市ニ一任シ其收益ハ務メテ公共慈善的事業ニ使用セントノ請願主旨ヲ委員長ヨリ府知事へ上申ス	十九日	總會ニ於テ博覽會正門前橋梁架設及樹木植附ノ件ヲ可決ス
三十日	總會ニテ紀念祭次第並ニ行幸準備等ノ件ヲ議ス	三十一日	和文案内記挿畫ノ筆者ヲ定メ前川文嶺外三十二人ニ囑托ス
三日	總會ニテ紀念祭日撰定ノ取調ヲ編纂部ニ托スルニ決ス	七日	紀念祭ニ係ル式典調査ノ爲メ雨森委員東上ス
十五日	紀念殿立柱式ヲ舉行ス	十七日	博覽會敷地工事完成ス

月		九		月		十	
二十日	衛生及其他設備ニ關スル諸件ヲ委員長ヨリ市參事會ニ上申ス	二十一日	總會ニテ博覽會場用鐵管運搬ノ件河原町警察署移轉新築ノ希望各病院醫員出張其他雜件ヲ議決ス	二十八日	總會ニテ確井委員豐樂院舊址發見物ノ事ヲ報告ス	十日	衛生接待兩部會ヲ開キ人力車構造ヲ制限改良ノ件獸肉運搬取締ノ件宿屋取締ノ件塵芥運搬ニ付區長ヘ訓示ノ件ヲ議定ス
十一日	總會ニテ宿屋取締規則其他改正増補ヲ要スル件アルヲ以テ府知事ニ稟請案ヲ議決ス	十四日	大極殿舊址地均シ工事ヲ長谷川伊三郎ニ命ス	十八日	總會ニテ協贊會ヘ平安神宮敷地トシテ寄附セシ本市有地ノ歩一稅ヲ協贊會ヘ交附スル件ヲ議決ス	二十日	總會ニ於テ紀念祭場裝飾ノ設計及豫算ヲ定ム
十九日	總會ニテ紀念祭場用裝飾品製方特撰並仕樣書ヲ議決シ又正面橋梁擬寶珠ニ銘ヲ刻セシコトヲ建議ス	二十三日	總會ニテ博覽會發品處分法ニ付開申ノ件ヲ議ス				

月		十一月		十二月	
二十六日	參事會ニテ第四回内國勸業博覽會場噴水鐵管敷設工事ヲ大西己之助ニ受負方ヲ命ス	二十九日	總會ニテ大極殿遺跡工事設計案及正面橋銘文彫刻ノ件ヲ議決ス	二十日	總會ニテ紀念殿正面橋ヲ慶流橋與川通ノ橋ヲ東冷泉橋ト名クルニ決ス
二十八日	英文案内印刷ノ件納本最多數二千二百部ヲ以テ坂田稔ニ落札ス	一日	大極殿遺跡保存工事ヲ吉村伊三郎ニ命ス	十二日	編纂接待兩部會ヲ開キ和文案内記彫刻印刷及製本請負者入札指名及製本式樣ニ係ル件和文案内記ニ記入スヘキ本市著名商店調査ノ件ヲ議ス
二十七日	博覽會場内鐵管噴水工事成ル此日委員等之ヲ巡視ス	三十日	市參事會ニテ和文案内記印刷ヲ市ノ直營事業ト爲スコトニ決ス		

明治二十八年

一	
四日	總會ニ於テ大坪權六ニ英文案内記檢閱ヲ托スルコトニ決ス
九日	博覽會敷地内樹木植附竣功ス
	部會ニテ接待及衛生事務ニ關シ接待部委員ニテ各警察署交渉員ノ分擔ヲ定ム

二		月	
二十四日	部會ニテ和文案内記校閲及題字序文ノ事ヲ議ス	有志者待賓協會設立ノ事ヲ協議ス	族店割烹店及人力車取締方參考トシテ觀察ノ爲メ臨時市事務取扱青山長祐ニ廣島市出張ヲ命ス
二十五日	鐵道局ヨリ紀念祭及博覽會開設中七條停車場ニ臨時待合所假設ノ事ヲ報告ス	編纂部和文案内記ヲ脱稿シ總會ニ提出ス	部會ニテ應天門前ノ道路ヲ開鑿スルコトトシ其市ニ關セサル分ハ協賛會ニ負擔セシムルコトニ決ス
二十八日	岩倉掌典ヲ案内シテ紀念祭委員協賛會幹事平安神宮建築場ニ出張ス	總會ニテ和英兩文小案内記ノ編纂及全國各都會ニ紀念祭ノ建札建設ノ事ヲ決ス	京都市公衆衛生ニ關スル協議會ヲ府知事官邸ニ開ク
一日	横濱マール新聞記者カピタンプリンクリー及帝國ホテル主事横山孫一郎へ依託シアル廣告文編纂及印刷方ニ付協議及外國新聞ニ廣告ニ係ル件調査ノ爲メ臨時市事務取扱小林精一郎ニ出張ヲ命ス	總會ニテ紀念祭及勸業博覽會ニ關スル廣告用掛圖調製ノ事ヲ決ス	
四日			
八日			

十日	總會ニテ紀念祭廣告ノ爲メ府下及各府縣都會ノ地凡百六十個所ニ建札ヲ建設スル爲メ各府縣知事ニ宛テ依頼書ヲ發スルコトニ決ス	京都有志者ノ組織セル待賓協會成ル趣旨書ヲ發行シ有樂館ヲ以テ俱樂部トナス	總會ニテ紀念祭已ニ近ク事務煩多ヲ以テ委員會ヲ増シ一週二回火木兩曜日トナス
十三日	應天門通新設道路工事ヲ大西音五郎ニ命ス	總會ヲ火木兩曜日ト爲ス	紀念祭神事獻燈ノ徽章櫻橋ノ紋ト定メ市内各戸ニ新調セシムルコトトス
十七日	湯本文彦平安通志東京諸家へ校閲ヲ托シタルコト並ニ序文題字ノ事ヲ報告ス	平安神宮内陣其他舞臺裝飾物四神旗仕立方等ヲ命ス	總會ニ於テ大槻參事官小林精一郎ヨリ東京橫濱廣告ノ件ヲ報告ス
十九日	伯爵壬生基修平安神宮宮司ニ補セラル	プリンクリー氏ニ囑托セシ廣告用案内記成ル	協賛會ノ依頼ニヨリ廣告用小案内記三千部ヲ交附ス
二十一日			
二十六日			
二十七日			

三月	
十五日	平安神宮御靈代御鎮座式ヲ執行ス
十四日	平安神宮新殿式執行
十三日	平安神宮御帳臺及御神寶ヲ新造社殿ニ奉安ス
十二日	平安神宮鎮座式來十五日ト確定ス
十一日	平安神宮御靈代御府知事以下奉迎シ主殿寮出張所ニ奉安ス 英文案内記ヲ各國公使館領事館ニ配附シ且ツ紀念祭ノ趣旨ヲ記シ其廣布ヲ托ス
十日	平安神宮工事竣成ス
九日	平安神宮御鎮座式ニ付總會ヲ開ク
七日	和文案内記ヲ京華要誌ト題名スルコトニ決ス
六日	平安神宮敷地一萬六百四十五坪ヲ協賛會ニ讓附ノ件參事會ニテ可決ス
二日	總會ニテ紀念祭ノ服裝及委員又ハ來賓ノ佩用徽章調製ノコトヲ議定ス 博覽會場醫員出張ニ關シ建物備品消耗品等及小使ハ事務局ニテ供給シ醫員醫療器械及藥品等ハ本市ヨリ支辨シ毎日醫員一名出張セシムルコトヲ照會ス 精一郎ニ隨行ヲ命スルコトニ決ス 海外諸國廣告要務ニ付大槻參事官ニ大阪兵庫ノ兩地方ニ出張ヲ囑托シ並ニ小林

四月	
十六日	京華要誌版權登錄願ヲ出ス
十九日	總會ニテ委員ノ分擔ヲ變更ス
二十一日	總會ニテ府廳委員事務分擔ヲ變更ス
二十二日	總會ニテ湯本主事ノ建議ニ係ル紀念祭記事編纂ノ件可決ス
二十三日	總會ニテ委員例規ヲ改正シ其分科ヲ改メ祭典接待庶務會計編纂ノ五部十一掛ト爲シ又事務取扱細則ヲ定ム
二十五日	市議事堂成ル
二十六日	總會ニテ紀念祭事務ニ參與スヘキ市會議員ノ分擔ヲ定ム
一日	第四回内國勸業博覽會開場式ヲ執行ス
二日	平安遷都紀念祭事務所ヲ市會議事堂内ニ移ス 委員ト武德會ト平安神宮境内ニ武德殿再興ノ協議ヲナス 祭典部會中餘興接待式典委員會ヲ開キ饗宴接待旅館掛ノ各科ヲ置キ上下京區長 書記ニ接待事務取扱ヲ命ス 饗宴所其他建物ニ關スル件ヲ市參事會ニテ議決ス 旅館掛會議ヲ開キ出張所設置及取扱順序電話架設旅宿業者ニ注意ヲ與フルコト

四月	
四日	旅館掛會議ヲ開キ出張所設置及取扱順序電話架設旅宿業者ニ注意ヲ與フルコト

五 日	其他雜件ヲ議ス
九 日	京都府警察部ヨリ上下京旅店料理店戸數間數疊數等ヲ報告ス
十一 日	總會ニ於テ旅館部出張所取扱順序ヲ定ム
十一 日	參事會ヨリ電話架設ノ件ヲ逡信大臣ニ請願ス
十二 日	總會ニ於テ來京者ノ旅館ヲ周旋スルコトトシ招待狀ニ其趣旨ヲ添附スルコトヲ決議ス
十四 日	武德會ニテ大日本武德會規則成ル
十五 日	旅館掛出張ヲ三個所ニ決定ス
十六 日	逡信省博覽會開設中紀念祭事務所及各出張所警察署間等ヲ聯繫スル電話線ノ架設ヲ認可セラル
十七 日	總會ニテ招待員ヲ第一日ニ八百人第二日ニ千二百人第三日ニ四千八十人ト豫定シ其他折詰菓子等ノ事ヲ議決ス
二十 日	總會ニ於テ紀念祭餘興ノ日割ヲ定ム
二十二 日	深草淨蓮華院ニ於テ 桓武天皇ノ御法要ヲ舉ケ確井委員總代トシテ參向
二十三 日	總會ニ於テ旅館部事務規程ヲ改正シ委員ノ分擔ヲ變更ス

五 月	
二十四 日	總會ニ於テ衛生委員及市醫出張所ヲ設クルコトヲ議決ス此日大祭諸般ノ事務整フ
二十七 日	紀念祭當日 岡陛下ノ臨御ヲ請願スルコトヲ市會ニ於テ議決シ紀念祭式次第ヲ上申ス
二十八 日	府知事ヨリ 聖上御不例ニ付來三十日紀念祭ニ御臨幸アラセラレサル旨ヲ傳フ
三十 日	因テ直十ニ總會及協賛會幹事會ヲ開ラキ紀念祭ヲ延期スルコトヲ議シ市會ニ發案シ其事ヲ議決シ延期ノコトヲ諸方ニ報告ス
三十 日	紀念祭延期ニ付特別ニ金五千圓ヲ下賜セラル
七 日	延曆十二年平安城御造營勅定ノ日ニ相當スルヲ以テ臨時祭典ヲ舉行ス
八 日	總會ニテ大内裏遺跡標石ノ文字彫刻等ノ件ヲ議決ス
八 日	宇治郡山科村字栗栖野ニアル坂上田村曆ノ墓所修繕落成祭典アリ確井委員參向ス
九 日	總會ニテ平安通志印刷特撰受負ノ件ヲ議ス
十二 日	秋季ニ於テ 桓武天皇ニ緣故アル日取調ノ事ヲ湯本主事ニ托ス
十四 日	總會ニテ長岡宮城大極殿遺跡建碑成リ委員二名ヲ出張セシメ之ヲ實檢セシムル

六		月	
十五日	コトヲ議決ス	平安神宮臨時祭ヲ執行シ宮内省伶人舞樂ヲ奏ス	
十七日	市参事會ニ於テ紀念大祭期日ヲ十月二十二日ト確定ス	總會ニテ京華要誌ハ一部貳拾錢ノ版料ヲ以テ本市指定ノ書籍商ニ出版セシムルコトヲ議決ス	
十九日	比叡山延曆寺ニ於テ 桓武天皇大法要アリ兩森維井兩委員參向ス		
二十日	總會ニテ平安通志成稿ニ付編纂部ヲ事務所ニ合併シ本期限職員ヲ解職シ殘務取扱ハ更ニ任命スルコトヲ可決ス		
二十五日	市會ニテ來十月二十二日大祭ニ 天皇陛下ノ臨幸ヲ仰キ奉ランコトヲ参事會ヨリ宮内大臣ヘ請願スルコトヲ議決ス		
二十九日	紀伊郡伏見町御香宮ニ於テ同町士民平安遷都ノ紀念祭典ヲ舉行ス		
四日	地方官會議ノ爲メ在東京ノ各府縣知事ニ秋季大祭ノ幹旋ヲ依頼センカ爲メ兩森委員中村協賛會幹事東上ス		
十二日	市郡ノ重ナル社寺ノ宮司住職ヲ市會議事堂ヘ召集シ來十月祭典法要ノ執行方ニ關シ協議會ヲ開ク		

七		月	
十五日	此日平安神宮官祭ヲ執行セテ勅使トシテ一坂京都府書記官參向ス		
十七日	例祭ハ四月十五日ナレト本年ハ已ニ其時ヲ過キシヲ以テ臨時ニ行ハレシナリ紀念祭ノ執行方ニ關シ西村幹事協賛會幹事及紀念祭委員ヲ祇園中村樓ニ招待シ時代行列ニ關シ演說セリ		
十九日	西村幹事紀念祭委員ト共ニ聯合府縣ヘ巡回ス		
二十九日	總會ニテ平安通志三百部増刷ノ件ヲ議決ス		
一日	協賛會ニテ紀念祭ニ時代行列ヲ舉行スルコトトシ其調査委員會ヲ待賓俱樂部ニ開ク		
二日	總會ニテ紀念大祭舉行ノ事ヲ全國ニ廣告スルコトヲ議決ス		
八日	總會ニテ大極殿遺跡ニ銅碑建立ノ件ニ付取調委員囑托ノ事ヲ議決シ此日参事會ヨリ其調査委員七名ヲ囑托ス		
九日	總會ニテ平安通志ヲ 三陛下四殿下ニ獻上スル爲メ別製本ヲ製スルコトヲ議決ス		
二十一日	紀念祭執行中博覽會開期ヲ延長スル事ニ付前田正名等幹旋スル所アリ		
二十二日	總會ニテ紀念祭記事鋼領ヲ議決ス		

八 月	
二十四日	博覽會延長事件ニ付東京前田正名ヨリ電報ニテ委員上京ノ事ヲ促ス
二十五日	博覽會期延長請願ニ關シ内貴委員長上京ス
二十九日	内貴委員長歸京報告會ヲ開キ東京事情ヲ報告ス
三十日	協會ノ事ニ付委員ト有志者ト合議スル所アリ
三十一日	博覽會閉場
一日	各府縣有志者ハ鎮西館ニ於テ博覽會繼續問題ヲ議シ不足額參千圓ノ内貳千圓ヲ負擔スルコトトシ其發起人ヲ定ム
二日	總會ニテ紀念祭費本年度中豫算ノ調査ヲナシ且ツ紀念祭廣告用小冊子一萬部以上ヲ印刷シ諸方ヘ配附スルコトニ決ス
四日	博覽會繼續延期事件ニ付協議會ヲ市會議事堂ニ開キ農商務大臣ヘノ懇願書ヲ提出ス
七日	市參事會ニ於テ紀念祭廣告用ノ大形掛圖調製ノ件等ヲ議定ス
九日	市參事會ニテ紀念祭公告ノ爲メ大掛圖百五十個新調ノ件等ヲ議定ス
	物ノ拂下ヲ請願スルコトニ決ス

九 月	
二十日	博覽會建物拂下出願ノ件ニ關シ總會ヲ開ク
二十六日	農商務大臣ヨリ博覽會繼續懇願書ニ對シ聞届カタミトノ指令アリ
	市會ニテ十月紀念大祭執行ノ際市内七十以上ノ高齢人ヲ神宮ヘ參拜セシメ祝盃トシテ木盃一個ツ、贈與スルノ件ニ付其豫算千四百拾八圓八拾錢ヲ議定ス
三日	總會ニ於テ廣告小冊子ヲ調製スルコトヲ議決ス
五日	部會ニ於テ十月ノ大祭ニ係ル設備ヲ定ム
六日	總會ニ於テ奏樂ノ儀宮内大臣ヘ出願ノ件案内狀文案及發送ノ件ヲ議決ス
十三日	總會ニテ惡疫消滅ノ方法ヲ知事ニ懇談スルコトヲ議決ス
十七日	總會ニテ高齢人參拜ノ日ヲ十一月八日ト定ム
二十七日	總會ニテ大祭ノ前後ニ於テ祇園會ヲ執行セシメテ消々講社ニ照會スルコトニ決ス
二日	知事官邸ニ於テ大極殿遺跡調査委員會ヲ開ク
四日	總會ニ於テ紀念祭事項ヲ全國各新聞ニ報スル爲メ通信ヲ開始ス
	總會ニテ紀念祭ニ皇族方招待ノ爲メ市參事會知事ヨリ各宮別當ニ宛テ依頼狀ヲ發スルコト等ヲ議決ス

八日	總會ニ於テ市會議員一同紀念祭事務ニ參與スルコトヲ議決ス
九日	博覽會場建物拂下價格増額ニ關シ紀念祭委員及市參事會ヲ開ク
十一日	總會ニテ大祭日加茂鏡馬奉納ニ付上加茂神社ヨリ要用品借入ノ件及第四師團軍樂隊招聘ノ爲メ委員派遣ノコトヲ議決ス
十四日	農商務省ヨリ博覽會場建物ヲ京都市ニ拂下許可ノ指令アリ部會ニテ餘興日割ト場所ヲ定ム
十五日	總會ニテ博覽會場建物拂受クルニヨリ取締其他ノ規定ヲ設ク
十六日	在東京山田府知事ヨリ電報ニテ紀念祭日山階宮男親王殿下御名代トシテ御臨場アルヘキヲ報知ス
十八日	市參事會ニ於テ紀念祭慶宴費支出並ニ餘興ニ關スル件ヲ議決ス
十九日	市參事會及紀念祭事務所トモ出張所ヲ元博覽會機械館ニ設ケ事務ヲ取扱フ
二十一日	七條停車場前ニ旅館部出張所ヲ設置ス
二十二日	紀念祭及紀念式ヲ執行ス大勳位晃親王殿下御代臨 勅語ヲ賜ハル終リテ大ニ慶宴ヲ開ク
二十三日	祭式ヲ執行シ大ニ慶宴ヲ開ク

月	協賛會夜會ヲ開ク
二十四日	祭式ヲ執行シ大ニ慶宴ヲ開ク
二十五日	協賛會夜會ヲ開ク
二十七日	市内有志者相謀リ時代行列ヲ爲シテ平安神宮ニ參拜ス
二十八日	市參事會知事ヨリ紀念大祭終了ニ付近衛協賛會長同幹事委員及紀念祭委員參與員並ニ紀念祭關係者百餘名ヲ待賓俱樂部ニ招待シ慰勞宴會ヲ開ク
二十八日	市會ニテ市内各戸主ヲ平安神宮ニ參拜セシメ磁盃ヲ贈與スル爲メ其經費千五百圓支出ノ件ヲ議決セリ
六日	百川公墳墓落成ニ附近衛協賛會長久世確井而紀念祭委員參向ス
六日	京都市内毎戸主又ハ代人本日ヨリ十二日マテ平安神宮へ參拜セシメ磁盃ヲ贈與ス因リテ式典部分擔ヲ定ム
八日	平安神宮ニ於テ祭式ヲ行ヒ市内高齢人ヲ神宮ニ參拜セシメ神酒及木杯ヲ贈與ス
十三日	本日ヨリ十七日マテ市内一般ニ紀念踊ヲナシ平安神宮ニ參拜ス
十八日	紀念祭終了ニ付市參事會及紀念祭事務所出張所ヲ廢ス
十九日	總會ニテ紀念祭ニ關シ功勞調査ヲ報告シ物品贈與ノ件並ニ平安通志二百部賣捌

月	十	二	月
	二十七日		
			方ナ東枝吉兵衛へ囑托スル件等ヲ議決ス
			市参事會ニテ臨時衛生事務及市醫ノ功勞ヲ謝スル爲メ謝狀及京華要誌一部宛ヲ贈ケルノ件等ヲ議決ス
	六日		
			紀念祭委員立會ニテ元博覽會場建物ノ入札ヲ開票ス
			市参事會ニテ元博覽會ノ動物館其他建物賣却ヲ一時見合セ之ヲ染織學校ノ増築ニ用ヰルノ件ヲ議ス
	十日		
			百川公墳墓取崩工事成功ニ付祭典ヲ執行シ確井委員参拜ス
			總會ニテ今後時代祭ヲ秋季ニ執行スルヲ可トシ協賛會へ回答ス
	十二日		
			紀念祭事業ニ關シ功勞アル諸氏へ謝禮ノ爲メ贈品ヲ齎ラシ雨森西村(治兵衛)西村(義民)ノ三委員東上ス
	十七日		
			市會ニ於テ大内裏遺跡保存費ニ千七百八拾九圓餘ヲ追加スルコトヲ議決ス
	十八日		
			東上員歸京シ總會ニ報告ス
	二十三日		
			總會ニテ大極殿遺跡建碑工事ヲ大西吾五郎ニ命スルコトヲ議決ス
	二十四日		
	二十七日		

明治二十九年

月	二	月	一
	八日		七日
			總會ニ於テ大極殿遺跡建碑ノ文字揮毫ヲ山田長左衛門ニ托スルコトヲ議決ス
			市會ニ於テ紀念祭粗結了ニ付委員及事務所ヲ廢シ参事會ニテ残務整理スル希望ヲ陳ス
	二十日		
			市會ニテ第三號案ヲ可決シ委員規程及委員ヲ廢シ事務所ハ参事會ニ引繼キ残務ハ市参事會ニテ整理スル事トナル
			總會ヲ開キ事務ヲ整理シ引繼ノ準備ヲ爲ス
	二十三日		
			参事會ヨリ紀念祭委員ヲ解職ス
	二十九日		
			市参事會ヨリ事務所へ出張シ事務引繼ヲ爲シ残務ハ同會ニテ管理ス
	八日		
			市會ニ於テ第五號案ニテ桓武天皇御畫像帽額四神旗軟障其他祭器等ヲ平安神宮へ寄附スルコトヲ可決ス
	二十日		
			市参事會ヨリ紀念祭委員長以下二十一人ニ謝狀及物品ヲ贈リ其功勞ヲ表ス又大極殿碑文揮毫ノ謝儀トシ袴地一具ヲ贈ル
	二十日		
			紀念祭紀事成リ印刷ニ附ス

大極殿遺跡建碑紀事

明治二十九年

三月十七日

平安遷都紀念祭紀事卷下終

明治二十九年五月廿五日印刷
明治二十九年五月三十日發行

編輯兼
發行者

京都市參事會

京都市上京區下立賣通
新町西入藪之内町

右代表者

京都市參事會員

內貴甚三郎

京都市上京區押小路通
柳馬場東入橋町

中西嘉助

京都市上京區下立賣通
小川東入西大路町

中西活版所

京都市上京區下立賣通
小川東入西大路町

印刷者
印刷所

下		卷	
丁	一四	三	二
表	○	○	○
裏	○	○	○
誤	用井ノル	此建ヲ	第四會
正	ルノ	此建議ヲ	同京都市
丁	一六	三	二
表	○	○	○
裏	○	○	○
誤	時ノ種	好シテ	農務省
正	特	農商務省	功

侍資 不之膜 然祀 敷石 大部合 之ナ 市京都 第四會 此建ヲ 用井ノル

待不膜之 祭敷分乏 京都市 同京都市 此建議ヲ ルノ

無熱病 議算 岡上 鉾木五端 發敷地布 成功 農務省 好シテ 時ノ種 特 農商務省 功

日本書紀卷之三十三 卷之三十三 三十三

